

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	井上 英也 (実務家教員)		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本学の建学の理念にあるホスピタリティは、人と人を結びつける重要な素養として、国際化、多様化が進む企業活動においても広く取り入れられています。本演習は、ホスピタリティ産業の先端であるホテルの研究を通じて、“感じる力” “考える力” “表現・行動する力” を養い、将来の観光産業のリーダーを育成することをねらいとします。授業は、個人・グループによる研究、討議、発表により学びを深めます。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	地域観光の核となる宿泊業の役割を理解し、個々のホテル、旅館について、ビジネス、顧客、社員の観点から評価ができる。				課題レポート		10%
情報収集、分析力	常に新聞や雑誌に掲載される最新のホテル関連記事や情報を収集し、世界および我が国のホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。				授業への積極姿勢		30%
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分の考えを説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション		40%
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において、自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、新たなチャレンジに果敢に挑戦することができる。				授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢		10%
多様性理解力	外国人旅行客が地域のホテル・旅館・観光全般に求めることを理解し、改善策を提言することができる。				プレゼンテーション		10%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。</p> <p>② 「課題レポート」は提出時期 (30%) 内容の論理性・独自性 (50%) 文章構成力・形式要件 (20%) で評価する。</p> <p>③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。</p> <p>④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する。</p> <p>尚、評価のフィードバックは、授業内外で都度おこなう。</p>							
授業の概要							
<p>ホテルを支える従業員の仕事の内容を理解することを通じ、働くこと、キャリアを積むことの意義を考える機会とします。また数人のゲストスピーカーを招き、グローバルなキャリアについて学びます。個人・グループの研究成果はプレゼンテーションを通じて、成果を共有していきます。また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスやイマキクを利用して確認するこの授業の標準的な授業外学修時間は、1コマ45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：特になし / 参考書：授業時に、指定する。 指定図書：「ゴールド・スタンダード」ジョゼフ・ミケーリ							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>①ホテル・旅館など宿泊産業の情報に興味を持ち、書籍及び新聞、テレビ、雑誌などメディアから積極的に入手する。</p> <p>②ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行う。</p> <p>③「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「プライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。</p> <p>④近隣地域の観光イベントに興味を持ち、積極的に参加する。</p>							

⑤国際的な情勢に関心を持ち、学内・学外を問わず、積極的に異文化交流を行う。

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション ホテルの組織	専門演習ⅠAを総括し、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。 ホテルの組織と各部門の役割について理解する。	(予習) シラバスを読んでおく
2	省察、個人目標の設定	前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 後期の個人目標を考えておく
3	宿泊部門の仕事Ⅰ	現役の宿泊部長を招き、宿泊部門の仕事内容についての説明を受けた後、質疑応答により理解を深める	(復習) 宿泊部門の職務記述書を読む
4	宿泊部門の仕事Ⅱ	宿泊部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) 予め指示された宿泊部門の職務内容を理解する
5	料飲部門の仕事Ⅰ	料飲部門の主だった職務を職務記述書から読み解くことにより理解する。	(予習) レストランの仕事を調べておく
6	料飲部門の仕事Ⅱ	レストランで業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) 予め指示された料飲部門の職務内容を理解する
7	ウェディング部門の仕事Ⅰ	ウェディング部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) ウェディングプランナーの仕事を調べておく
8	ホテル試泊 福岡市内のホテルを試泊	福岡市内のホテルに宿泊し、ホテル館内の視察を通じて、ホテルのインスペクションを行う。 (ANAクラウンプラザ福岡 予定)	(予習) ANAクラウンプラザ福岡についてウェブサイト調べておく
9	ホテル試泊に関する プレゼンテーション	試泊によりインスペクションした結果について、グループごとに討議し、発表する。	(予習) 試泊した内容をまとめておく
10	セールス&マーケティング 部門の仕事	セールス&マーケティング部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) マーケティングの仕事を調べておく
11	管理部門(経理・人事)の 仕事	管理部門の職務を理解した後、業務上起こるケーススタディを通じ、具体的に仕事を理解する。	(予習) 人事の仕事を調べておく
12	総支配人の仕事	現役の総支配人を招き、ホテルのリーダーとしての役割について説明を受けた後、質疑応答により理解を深める。	(予習) 総支配人の役割を考えておく
13	キャリア・マップの理解と キャリア・パスの作成	ホテルのキャリアマップを理解し、総支配人になることを想定したキャリア・パスを作成する。	(予習) キャリア・マップについて調べておく
14	国際人としてのキャリア	国際的に通用するキャリアを、ホテルの仕事を参考に考察する。	(予習) 海外のホテルを一つ選択し、施設内容を調べておく
15	専門演習ⅠBのまとめ	学んだことをグループごとにとりまとめ、発表する。	(予習) グループ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	落合 知子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<p style="text-align: center;"><b>テーマ：博物館・地域文化資源の巡検</b></p> <p>博物館などの見学を各自が行い、博物館を資料・展示・保存・研究・展覧会など様々な角度から概観し、博物館を幅広く学ぶとともに、卒業研究のテーマを考える力を身に付けることができる。 地域文化資源の野外調査を行い、その結果を発表することができる。</p>							⑥⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館に関心を持つことができ、調査・研究の取り組み方法を身に付けることができる。				授業・調査への参加度	10%	
情報収集、分析力	博物館の特性や問題点を見出す力や思考力を養うことができる。書籍や論文を読み分析力を養うことができる。				事前・事後学習	30%	
コミュニケーション力	ゼミ形態の授業を基本とし、学外のフィールドワークで協調性を養うことができる。				調査における態度	50%	
協働・課題解決力	博物館の調査方法を身に付け、プレゼンテーションができる。勉強会に積極的に参加して、自分の考えを述べることができる。				プレゼンテーション勉強会での発表	10%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
合同調査や勉強会におけるコミュニケーション力が 50%、情報収集・分析力が 30%、プレゼンテーションおよびその他が各 10% で評価する。ポートフォリオで課題のフィードバックを行う。							
授業の概要							
<p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は 45 分とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・書籍・文献調査の課題提示をポートフォリオで行う。</li> <li>・勉強会を実施する。</li> <li>・研究発表会を行う。</li> <li>・研究成果レポートの作成と提出。</li> </ul>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。</p> <p>参考書：『博物館と観光』（落合知子編・雄山閣）</p> <p>指定図書：『野外博物館の研究』（落合知子著・雄山閣）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>本演習は、博物館や地域文化資源に興味を持ち、博物館専門職員である学芸員の資格取得を目指す学生の受講を希望する。教育者でもあり、研究者でもある学芸員は専門分野の知識は勿論のこと、コミュニケーション能力と礼節が求められるため、社会人としての基礎的能力を身に付けることを期待する。</p> <p>また、日頃から博物館施設に訪れ、展示を見学するだけでなく、博物館で開催されるワークショップや公開講座にも積極的に参加し、博物館の教育活動の在り方を学ぶことが望ましい。</p> <p>※本演習を選択する学生は「学芸員資格課程」を履修することが望ましい。</p> <p>※見学・調査費用は実費とする。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	専門演習の進め方・目標について理解する。	予習：シラバスを読む 復習：野外調査地の考案
2	前学期の省察と本学期的目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
4	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
5	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
6	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
7	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
8	卒業研究の指導	卒業研究の先行研究を纏める。	予習：先行研究の準備 復習：今回の復習
9	卒業研究の指導	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
10	卒業研究の指導	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
11	卒業研究の指導	卒業研究の第1章を纏める。	予習：第1章の準備 復習：今回の復習
12	卒業研究の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
13	卒業研究の発表	卒業研究の進捗状況をプレゼンテーションする。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
14	卒業研究の添削指導	添削された卒業研究を修正する。	予習：卒業研究の修正 復習：卒業研究の修正
15	前期課題の受理	後期のまとめとして、修正した卒業研究を提出する。	予習：卒業研究提出準備 復習：文献・資料の整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	城前奈美		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
<b>テーマ：グループワークを通じて、「観光の経済社会への影響」について事例研究をしよう。</b> 1 つの研究テーマをグループで見出し、共同でその研究テーマに関して先行研究を調べ、研究調査を実践し、報告書を作成し、報告する。この一連の研究過程を通して、研究とはどのようなものかを学び、共同作業による連帯意識を構築することができる。							⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	(1) 観光経済学や観光社会学の諸理論について理解できる。 (2) 研究テーマに関する研究手法や研究の意義を理解できる。				・グループによる課題提出 ・グループによるプレゼンテーション	10% 10%	
情報収集、分析力	(1) 先行研究がどのように活かせるかを述べるができる。 (2) 研究調査の構成を組み立てることができ、調査結果を的確に分析することができる。				グループディスカッション	30%	
コミュニケーション力	調査結果を的確に伝えることができる。				グループによるプレゼンテーション	40%	
協働・課題解決力	(1) 計画的に準備し実行することができる。 (2) 研究調査に積極的に参加し、貢献できる。				・グループによる課題提出 ・グループワークの取り組み	5% 5%	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>グループによる課題提出（15%）はワード文書とし、グループによる発表（50%）は、パワーポイント資料を用いて行う。課題提出においては、提出期日を守っているか、体裁が整っているか、論理構造が整っているか等を評価する。発表においては、聞き手に分かりやすく発表しているか、資料の提示が適切か、質問に的確に答えられるか等を評価する。各課題のフィードバックは、授業時に適宜行う。また、その提出方法は、ポートフォリオを使用するため、ネットワーク環境があることを前提とする。</p> <p>ディスカッション（30%）においては、積極的に議論に参加しているか、議論を建設的に組み立てているか等を評価し、グループワークへの参画（5%）を評価する。</p>							
授業の概要							
<p>グループで研究テーマを決め、その研究テーマに関する先行研究をまとめ、独自の調査内容を決めて、調査を実行する。調査結果を集計し、分析し、報告書をまとめ、発表報告し、一連の研究について討論する。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書・参考書：特に指定しない。</p> <p>指定図書：ジェームズ・マック（2005）『観光経済学入門』日本評論社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
欠席や遅刻をする場合は、必ず事前に連絡をすること。また、自主的に積極的に協力して学んでいくこと。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 省察、個人目標の設定	ゼミ概要やスケジュールについて、オリエンテーションする。前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	研究テーマを考える。
2	共同研究(1)研究テーマの設定	共同研究する研究の目的を明らかにし、研究テーマを設定する。	研究テーマに関する先行研究を収集する。
3	共同研究(2)先行研究調査	研究テーマに関する先行研究を収集し解題し報告する。	先行研究を解題しまとめる。
4	共同研究(3)調査内容の決定	研究テーマに基づき、調査内容を決定する。	調査内容について案を作成する。
5	共同研究(4)調査方法の検討	調査方法を学び、有効な調査方法を確定する。	有効な調査方法、役割分担を検討する。
6	共同研究(5)調査	実地調査を実施する。	調査計画を検討する。
7	共同研究(6)調査	実地調査を実施する。	調査計画を定める。
8	共同研究(7)調査データの確認作業	調査データをチェックする方法を学び、チェックする。	入力作業をする。
9	共同研究(8) 調査結果の集計	調査結果を集計し、まとめる。	入力作業をする。
10	共同研究(9)分析	集計した結果から各種効果を算出する。	調査結果をまとめる。
11	共同研究(10)分析結果の検討	各種効果について討論する。	分析結果をまとめる。
12	共同研究(11)報告書の作成	報告書の構成および作成分担を決定する。報告書作成上のグラフ、脚注、参考文献の記述方法を学ぶ。	報告書の構成を考える。
13	共同研究(12)報告書の作成	発表用のパワーポイント資料を作成する。	資料を作成する。
14	共同研究(13)研究発表	一連の研究を発表報告し、討論する。	発表に向けた原稿を作成する。質疑応答対策をする。
15	共同研究(14)研究の振り返り	一連の研究を振り返り、研究の成果と研究の課題を振り返る。	研究を振り返る。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CA111)			担当教員	滝 知則		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
<b>三川内焼の特徴と魅力を、2つの言葉でガイドする</b> 後期においては、三川内焼と有田焼の比較を行う。この比較を通じ、三川内焼の特徴の説明を、前期よりも幅広くまた深くできるようにする。説明は、2つの言語で行うことをめざす。これらを通じ、佐世保の観光対象としての三川内焼の魅力を理解するとともに、コミュニケーション能力を伸ばす。							④⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	研究対象とする陶磁器の歴史と制作過程を理解し、説明できる。				期末レポート	10%	
情報収集、分析力	資料調査、観察またはインタビューを行うことにより、対象とする陶磁器の情報を収集する。				期末レポート	25%	
コミュニケーション力	調査結果を聞き手に分かりやすく並べ替え、説明できる。ゼミのメンバーならびに担当教員の発言を傾聴できる。				ゼミ内発表会演習参加状況	35% 10%	
協働・課題解決力	有田町でのフィールドワークの際、3年生と一緒に調査を行うことができる。				フィールドワーク参加	10%	
多様性理解力	ゼミのメンバーと自分の文化的背景の違いを認識したうえで、お互いを尊重して行動できる。				演習への参加状況	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
1. 評価基準を授業の時系列順に示すと、授業中の傾聴（毎回）、自他の文化の尊重（毎回）、フィールドワーク参加状況（実施時）、ゼミ内発表会、期末レポート（40%）である。 2. フィードバックは次の時点で行う。予習課題・復習課題：授業中、プレゼンテーション：当該授業時、期末レポート：提出締切後（個別に）							
授 業 の 概 要							
（1）前期の学修成果をまとめ、大学祭での学術発表を行う。（2）有田町でのフィールドワークを行う。（3）有田焼との比較を行うことで、三川内焼への理解をさらに深める。（4）学修の成果を目に見える形にする。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、90分です。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：指定しない。 参考書：『平戸の文化と自然』、『皿山なぜなぜ』、『長崎学への道案内』、『日本やきもの史』等。 指定図書：大橋康二（2004）海を渡った陶磁器。吉川弘文館。							
授業外における学修及び学生に期待すること							
（1）開国祭での学術発表への参加を、必須とする。（2）観光マネジメントコース、スポーツツーリズムコース、またはグローバルツーリズムコース履修生の受講を勧める。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	イントロダクション	この科目の目的と目標、ならびに学習スケジュールを確認する。	(予習) シラバスを読んでくる。 (復習) 後期のスケジュールを手帳等に記入する。
2	省察	2年前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 面談の準備。 (復習) 面談結果を記録しておく。
3	学術発表準備 1	前期のレポートを基にした学術発表の準備。①グループ編成、②スライド制作の方針と作業分担。	(予習) 前期のレポート(紙媒体とデータ)を持参する。 (復習) 制作したスライドのページをマナバにアップする。
4	学術発表準備 2	学術発表用スライドの編集作業。	(予習) グループのメンバーのスライドを読んでおく。(復習) 自分のスライドの修正、編集
5	学術発表準備 3	学術発表のリハーサル。	(予習) 発表の練習をしてくる。 (復習) リハーサルで見つかった課題の改善
6	学術発表	大学祭期間中に学術発表を行う。	(予習) 発表の練習をしてくる。 (復習) 発表後の感想を、マナバに記入する。
7	有田焼の調査 1	①学術発表のふりかえり。 ②有田焼の概要、③有田町へのアクセス	(予習) 配布された資料を読んでくる。(復習) 調査結果を記録する。
8	有田焼の調査 2	①フィールドワーク時調査対象(窯元、観光施設)の検討	(予習) 調査対象の候補を選んでおく。(復習) 調査結果を記録する。
9	有田焼の調査 3	①フィールドワーク時調査対象(窯元、観光施設)の選定、②行程の決定	(予習) 自分が希望する調査対象を選んでおく。(復習) フィールドワークの準備
10	有田町フィールドワーク	フィールドワークの実施	(復習) フィールドワークの調査結果をマナバに記入する。
11	フィールドワークのふりかえり 1	①フィールドワーク調査結果の共有	(予習) マナバに記入された調査結果を読んでくる。(復習) 他メンバーの調査結果への感想を記入
12	フィールドワークふりかえり 2	①有田焼との比較を踏まえ、三川内焼の特徴と魅力を聴き手に伝えるプレゼン用のスライドを作成する。	(予習) プレゼンの作成 (復習) 見つかった改善点を考慮してプレゼン資料を修正し、次回で提示する。
13	フィールドワークふりかえり 3	②プレゼンテーションの内容を、リーフレット(A4版2ページ)にまとめる。	
14	ゼミ内発表会	①各ゼミ生によるプレゼンテーション(3分間) ②リーフレット ①・②とも「分かりやすさ」に留意し、相互に評価する。	(予習) プレゼンの練習 (復習) プレゼンの評価
15	全体のまとめ	①この科目で学習した内容のふりかえり、②所期の目標に到達したか、③期末レポートの指示	(予習) 目標の到達度を発表できるよう、準備する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	田中 誠		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な内容に関して、英語で表現できるようになり、多文化共生社会において交流することができる。</li> <li>特定のテーマに関して、自ら事前に調べ発表することで学びや知識を深め、様々な問題解決に役立つ思考や判断をすることができる。</li> <li>TOEIC の基礎的な内容を理解し、それを実際のコミュニケーションに活かすことができる。</li> </ul>							①⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	TOEIC 450 点レベルの語法問題を概ね解くことができる。				・テスト	25%	
情報収集、分析力	基礎レベルの問題の情報収集、及び解決のための思考・判断能力を身につけ、その内容を発表することができる。				・受講者の発表	30%	
コミュニケーション力	(1) 基礎的なコミュニケーションのために必要な知識を理解し、コミュニケーションがうまくいかない場合は、なぜうまくいかないのかを説明することができる。				(1) 受講者の発表	25%	
	(2) コミュニケーション力をつけるための課題英文を適切に書くことができる。				(2) 課題	20%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎回、英文の音読筆写の課題を提出する。また、そのフィードバックは課題提出時にその都度行う。</li> <li>2. 15 回目に小テストを実施。テスト内容は TOEIC の形式とする。テスト後は個別にフィードバックを行う。</li> <li>3. 担当箇所の発表内容を評価の対象とする。準備不足の学生は減点となる。</li> </ol>							
授業の概要							
<p>英語と日本語の実際の場面で使用される様々な表現を学ぶとともに、与えられたテーマに関して議論し、理解を深める。また、TOEIC の基礎を学ぶ。(コースの指定は特にしない。)</p> <p>この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『英検準 1 級 英作文問題完全制覇』 ジャパンタイムズ。及び、プリント配布。</p> <p>参考書：『新 TOEIC TEST 出る単特急 金のフレーズ』 TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。</p> <p>『新 TOEIC TEST 入門特急 とれる 600 点』 TEX 加藤 (著)、朝日新聞出版。</p> <p>指定図書：『ことばと文化』 鈴木孝夫(著)、岩波新書。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>コミュニケーション能力向上のために自ら学ぶという努力をしてもらいたい。この演習は、自ら学ぼうとする学生向けの内容となっている。英語と日本語双方の言語に関して、コミュニケーション能力の向上を目指し、ハイレベルな内容を取り扱うので、英語力と日本語力の両方がないと授業についていくのは難しい。特に、留学生は日本語能力が N1 レベルないと授業内容を理解するのは難しいであろう。毎回、課題も出すので、一生懸命学ぼうと努力する必要があることを理解して履修すること。また、長期インターンシップに参加する学生を歓迎する。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	発表、オリエンテーション	休暇中の取り組みについて英語で発表。また、ゼミがスムーズに運営できるように、オリエンテーションを行う	予習：TOEICの最新情報について調べる 復習：音読筆写
2	前学期の省察と本学期的目標設定・面談	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する。面談の実施	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の清書
3	to 不定詞を使いこなす	to 不定詞を使った表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 1-10 について調べる 復習：英文 1-10 音読筆写
4	if 節を使いこなす	if 節を使った表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 11-20 について調べる 復習：英文 11-20 音読筆写
5	知覚構文を使いこなす	知覚構文を使った表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 21-30 について調べる 復習：英文 21-30 音読筆写
6	論文の書き方①	論文のテーマを探す、資料の収集法、図書館活用法、カードの活用、PCの活用など（レベル1）、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 31-40 について調べる 復習：英文 31-40 音読筆写
7	感情のこもった倒置	倒置を使った表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 41-50 について調べる 復習：英文 41-50 音読筆写
8	オブラートに包む否定表現	否定を使った表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 51-60 について調べる 復習：英文 51-60 音読筆写
9	時制を使いこなす	時制に関する表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習 TOEIC 61-70 について調べる 復習：英文 61-70 音読筆写
10	臨場感を伝える表現	臨場感を伝えるための表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 71-80 について調べる 復習：英文 71-80 音読筆写
11	論文の書き方②	インターネット活用、切り口を考える、何をすべきかなど（レベル1）、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 81-90 について調べる 復習：英文 81-90 音読筆写
12	数量詞を使いこなす	数量詞を使った表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 91-100 について調べる 復習：英文 91-100 音読筆写
13	可算名詞、不可算名詞を使いこなす	名詞に関する表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究、	予習：TOEIC 101-110 について調べる 復習：英文 101-110 音読筆写
14	的確に質問する	質問する際の表現、ディスカッション、TOEIC問題、翻訳研究	予習：TOEIC 111-120 について調べる 復習：英文 111-120 音読筆写、振り返り
15	まとめ	小テスト、ディスカッション、まとめ	予習：試験の準備学習、 復習：音読筆写

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	中山 忠彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習 IA・IB では、「コミュニケーション力の向上」「メディアリテラシーの向上」「スポーツ指導体験」を 3 大目標として、演習を展開します。IB では、各種ワークを通じて個人およびグループにて課題解決に取り組みます (コミュニケーション力)。また、PC もしくはスマートフォンを用いた文書作成・表計算技能・映像編集を習得します (メディアリテラシー)。様々なスポーツ体験と指導体験を通して、「する」「ささえる」観点からスポーツの意義の理解を深めます。遠隔授業にて実施する場合があります。</p>							① ② ⑤ ⑦ ⑩ ⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	・スポーツの意義を説明することができる。				・課題レポート	30%	
情報収集、分析力	・PC もしくはスマートフォンを学習・研究・データ収集に効果的に活用できる。				・作業課題	20%	
コミュニケーション力	・自分の意見を適切に伝えることができるとともに、他ゼミ生の意見を柔軟に取り入れることで円滑なコミュニケーションがとれる。				・ワークへの取り組み態度とワークによる成果	20%	
協働・課題解決力	・各種ワーク・活動に対して、共同して誠実に取り組むことができる。				・ワークへの取り組み態度とワークによる成果	20%	
多様性理解力	・自分自身の長を理解した上で、他の学生の個性や多様性を尊重し、周囲に不快感を与えない配慮ができる。				・受講態度	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>・ワークへの取り組みと成果を評価する (評価比率: 40%)。フィードバックは、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。</p> <p>・メディアリテラシーの作業課題を評価する (評価比率: 20%)。フィードバックは、授業終盤で理解度、達成度、課題を確認させる。</p> <p>・課題レポート (評価比率: 30%) : 「自らのスポーツキャリアと今後の活用」について評価する。第 15 回授業時にフィードバックする。</p> <p>・受講態度 (評価比率: 10%) : 受講ルールの遵守と積極的な受講態度を評価する。</p>							
授業の概要							
<p>本授業では、各種ワークを通じて、コミュニケーションの向上のための活動を実施します。また、PC・スマートフォンを使用しメディアリテラシーを高め、日常生活・学生生活・研究活動が円滑に行えるようにします。さらに、スポーツに関する科学的知識を理解することで、自らのスポーツキャリアが社会にどのように貢献できるかを見極めたうえで、研究を行うための基礎力を習得します。なお、スポーツ (指導) 体験を行う際、活動に関わる実費負担が生じる場合があります。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、60 分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書: 特に指定しない</p> <p>参考書: 「スポーツトレーニングの常識を超えろ!」NPO 法人日本トレーニング指導者協会(編) (大修館書店) ISBN : 978-4-469-26859-1</p> <p>参考書: 「トレーニング指導者テキスト 実践編 改訂版」NPO 法人日本トレーニング指導者協会(編) (大修館書店) ISBN : 978-4-469-26754-9</p> <p>指定図書: 「健康・スポーツ科学のための卒業論文/修士論文の書き方」出村 慎一・山次 俊介 (杏林書院) ISBN : 978-4-7644-1162-3</p>							

授業外における学修及び学生に期待すること

**授業外における学習**：様々なスポーツについて、興味関心をもって観察し、各種スポーツの特性や可能性からスポーツの意義や価値を考える習慣ができるように、授業外でスポーツ現場やテレビ等の様々なメディアを活用して情報収集することを望みます。

**学生に期待すること**：スポーツの魅力を伝えることができる人になってほしい。そのためには、本演習に誠実な態度で取り組み、責任ある社会人として魅力ある人間性を身につけることを望んでいます。また、ゼミ生にはキッズ・ジュニアスポーツ指導ボランティアなど学外実習の積極的な参加を望みます。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習授業の進め方の確認</li> <li>・夏季休暇中の活動報告と今期の目標設定</li> </ul>	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（情報交換）</li> <li>・メディアリテラシー（アプリ活用）</li> <li>・前学期の省察を行い、目標を設定</li> </ul>	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標を確認
3	コミュニケーションスキル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（運動有能感と運動嫌い）</li> <li>・メディアリテラシー（文字入力）</li> </ul>	予習：運動有能感と運動嫌いについて調査する 復習：運動有能感を高めるための取り組み
4	新体力テスト①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアリテラシー（文字入力）</li> <li>・新体力テストの実施と記録</li> </ul>	予習：新体力テスト実施要項の確認 復習：前期との比較を通して生活習慣の改善を図る
5	新体力テスト②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアリテラシー（タイピング練習）</li> <li>・新体力テストの実施と記録</li> </ul>	予習：測定手順の確認と身体づくり 復習：前期との比較を通して生活習慣の改善を図る
6	トレーニング実践①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（情報提供）</li> <li>・メディアリテラシー（データ入力）</li> <li>・トレーニング実践</li> </ul>	予習：最新のトレーニングについて調べる 復習：トレーニング効果の確認
7	トレーニング実践②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（協働）</li> <li>・メディアリテラシー（エクセル計算）</li> <li>・トレーニング実践</li> </ul>	予習：最新のトレーニングについて調べる 復習：トレーニング効果の確認
8	スポーツ体験①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（交流）</li> <li>・メディアリテラシー（エクセル統計）</li> <li>・スポーツ体験（運動遊び）</li> </ul>	予習：運動を楽しむための手法を調べる 復習：楽しい運動遊びの立案
9	スポーツ体験②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（調和）</li> <li>・メディアリテラシー（アプリ活用）</li> <li>・スポーツ体験（レクリエーションスポーツ）</li> </ul>	予習：レクリエーションスポーツの意義を調べる 復習：選択したレクリエーションスポーツの実践
10	スポーツ体験③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ディスカッション）</li> <li>・メディアリテラシー（動画撮影①）</li> <li>・スポーツ体験（競技スポーツ）</li> </ul>	予習：競技スポーツの特性を調べる 復習：撮影した競技スポーツの映像を視聴
11	スポーツ指導体験①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（調和）</li> <li>・メディアリテラシー（動画加工）</li> <li>・キッズ・ジュニアスポーツ指導体験</li> </ul>	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：撮影した動画から指導実践の振り返りと改善
12	スポーツ指導体験②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（共有）</li> <li>・メディアリテラシー（動画編集）</li> <li>・競技スポーツ指導体験</li> </ul>	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：撮影した動画から指導実践の振り返りと改善
13	スポーツ指導体験③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（ミーティング）</li> <li>・メディアリテラシー（動画編集）</li> <li>・競技スポーツ指導体験</li> </ul>	予習：選択したスポーツの指導案作成 復習：撮影した動画から指導実践の振り返りと改善
14	トレーニング指導体験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションワーク（コーチング）</li> <li>・トレーニング指導体験</li> <li>※課題レポート（提出期限：15回授業の前日）</li> </ul>	予習：トレーニングプログラムの立案 復習：パフォーマンス向上のためのトレーニング実践
15	総合復習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題レポートのフィードバック</li> <li>・総合復習</li> </ul>	予習：これまでの活動を振り返る 復習：積極的なスポーツへの関わり

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	落合 和昭 (実務家教員)		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
ホスピタリティは観光事業全般において、定性的な影響をもたらすのみならず、定量的な効果をも生み出すことが広く認識されています。従って本演習では、①ホテルは複数の仕事や商品から成り立っていることが多いため、その全体を理解します。②ホテルには複数のステークホルダー（利害関係者）がいます。ホテルがそれらに与える影響を意識します。③架空のプランや計画を想像することで、業務への理解を深めます。							②④ ⑥⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	ホテルにおける商品や価格・販売などを理解し、相互に及ぼす影響に関しても想像することができる。				課題レポート		10%
情報収集、分析力	最新のホテル関連記事や情報を収集し、感染症対策などホテル業の潮流について自分なりの見識を持つことができる。				授業への積極姿勢		30%
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、自分のプランや企画を説明することができる。また、パワーポイントを使って説得力のあるプレゼンテーションをすることができる。				授業への積極姿勢 プレゼンテーション		40%
協働・課題解決力	ホテル視察、研究において自分の役割を設定し、グループに貢献することができる。また、感染症の影響など、課題に対する新たなチャレンジを提案することができる。				授業への積極姿勢 現場視察への積極姿勢		10%
多様性理解力	外国人や高齢者、介助を必要とする旅行客など、多様な利用客を想像し、それぞれに必要な改善策を提言することができる。				プレゼンテーション		10%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
① 「授業への積極姿勢」は、授業中の態度、発言・質問の頻度とレベルをもとに評価する。 ② 「課題レポート」は提出時期（30%）内容の論理性・独自性（50%）文章構成力・形式要件（20%）で評価する。 ③ 「プレゼンテーション」は、内容とともに、情報ツールの活用能力、発表態度などをもとに評価する。 ④ 「現場視察への積極姿勢」は、事前準備、視察中の態度、事後のとりまとめなどをもとに評価する							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>ホテルの特徴を活かすため、セールスやマーケティングの概要を学ぶ。</li> <li>ホテルの管理部門についても理解する。</li> <li>ホテルビジネス実務検定（1級）の問題に取り組む。</li> <li>総括として近隣のホテルに試泊し、現職のスタッフと交流して理解を深める。</li> </ul> <p>また、授業の理解度をポートフォリオのレスポンスなどを利用して確認する。課題レポートは、翌週の演習でフィードバックすると同時に、1週間コンテンツに掲示する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
教科書：ホテルビジネス「基礎編」（一般財団法人日本ホテル教育センター）				指定図書：演習時に指定する。			
授業外における学修及び学生に期待すること							
① ホテル・旅館など宿泊産業や観光イベントなどの情報に興味を持ち、メディアから積極的に入手する。 ② ゼミのチームメンバーとは、協力して授業外の研究活動を行い、異文化交流を図る。 ③ 「宿泊業論」・「ホテルオペレーション」・「プライダルマネジメント」など関連の科目を履修し、理解を深める。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション ホテルの組織	専門演習 I A を総括し、今後の演習の進め方をシラバスに基づいて詳しく説明する。 ホテルの組織と各部門の役割について理解する。	(予習) シラバスを読んでおく
2	省察、個人目標の設定	前期の学修成果を省察し、後期の個人目標設定のための面談を実施する。	(予習) 後期の個人目標を考えておく
3	ホテルの管理部門①	教科書および職務基準書に基づき、管理部門の主な仕事を理解する。	(予習) 管理部門の仕事に関する質問を考える。
4	ホテルの管理部門②	ホテルビジネス実務検定の管理部門について、過去問にチャレンジする。	(復習) 自分の回答について教科書を確認する。
5	ホテルの経理部門①	教科書および職務基準書に基づき、経理部門の主な仕事を理解する。	(予習) 経理部門の仕事に関する質問を考える。
6	ホテルの経理部門②	ホテルビジネス実務検定の管理部門について、過去問にチャレンジする。	(復習) 自分の回答について教科書を確認する。
7	ホテルセールス&マーケティング①	ホテルのマーケティング活動に関する説明を受け、質疑応答を行う。	(予習) セールス&マーケティングに関して調べておく。
8	ホテルセールス&マーケティング②	ホテルのセールス活動に関する説明を受け、質疑応答を行う。	(復習) 架空の新規セールス&マーケティングプランを作成する。
9	ホテルセールス&マーケティング③	架空の新規セールス&マーケティングプランを発表し、意見交換を行う。	(復習) 架空の新規セールス&マーケティングプランを完成する。
10	ホテルセールス&マーケティング④	ホテルビジネス実務検定のセールス&マーケティング部門について、過去問にチャレンジする。	(復習) 自分の回答について教科書を確認する。
11	ホテルビジネス検定模試	ホテルビジネス実務検定 1 級模試を行う。	(予習) 対象範囲の復習をする
12	ホテル試泊	これまでの学習の総括として、近隣ホテルに試泊して幹部スタッフと意見交換を図る。	(予習) 試泊予定のホテルについて調べておく。
13	ホテル試泊プレゼンテーション①	試泊を通じて学んだ内容について、営業の改善提案を含めたプレゼンテーションを行う。(1回目)	(予習) プレゼンテーションの準備を行う。
14	ホテル試泊プレゼンテーション②	試泊を通じて学んだ内容について、営業の改善提案を含めたプレゼンテーションを行う。(2回目)	(予習) プレゼンテーションの準備を行う。
15	専門演習 I B のまとめ	学んだことをとりまとめ、発表する。	(予習) 発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	乙須 翼		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
本演習では、受講者がテーマに関するデータや報告書、文献を読み、レジュメを作成して発表し、議論することを通じて、受講者の情報を収集する力、批判的に分析する力、自分の考えを的確に説明する力、論理的な文書を書く力、これら基礎力の養成をはかりたい。テーマを、「子育て・家族・ジェンダー・労働から世界を見る」とし、テーマに関わる国際比較のデータや文献の情報収集、講読、プレゼンテーションなどの作業を進める中で、各受講者が日本の子どもや家族、ジェンダーや労働に関する価値観の特徴を理解すると共に、世界の国の人々の生活や文化、社会へと関心を広げていけるよう導きたい。							①⑤⑥⑧⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力							
情報収集、分析力	データや報告書、文献などを的確に読み取ることができる。テーマに関する情報を文献やインターネットなどを用いて収集することができる。				レジュメ発表と議論		15% 15%
コミュニケーション力	発表のレジュメやスライドを指定された形で作成し、プレゼンテーションをすることができる。特定のテーマに関して他の受講者と議論することができる。				レジュメ発表と議論		20% 30%
協働・課題解決力							
多様性理解力	日本の子どもや家族、ジェンダーや労働に関する考え方について、その基本的特徴を説明することができる。日本と他国を比較し、その違いや共通点を背景となる文化や歴史等から自分なりに考察し、説明することができる。				レジュメ発表と議論		10% 10%
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価については、レジュメの様式・内容を 45%、発表と議論を 55%の比率で評価する。レジュメは、様式や文献引用ルールの順守等、基本的なアカデミック・スキルと、論理的な文章による考察や独自性などの観点から評価する。レジュメの作成方法については演習中に予め指示をし、演習内で随時、修正個所の指摘やアドバイス等、コメントする。発表と議論については、テーマに対して批判的・探究的な態度で臨んでいるか、発言し、議論に参加しているかなどを基準に評価する。演習の無断欠席（特に課題発表の担当となっている日の欠席）は大幅に減点する。							
授業の概要							
授業については概ね次の内容、手順によって進める。1. 受講者全員で「子育て・家族・ジェンダー・労働」に関連して国際比較をしてみたいテーマまたは国を決定する。2. テーマまたは国に関する基本的な事項を確認し、理解を深める。3. 国際機関等が作成したテーマまたは国に関するデータや資料を概観し、国による違いや共通点を大まかに理解する。4. 各自興味を持った国またはテーマについて紹介する。なお、授業の進め方については受講者の人数等により若干変更する場合がある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分である。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない 指定図書：牧野カツコ他『国際比較に見る世界の家族と子育て』（2010） 参考書：汐見稔幸編著『世界に学ぼう！子育て支援』（2003） 内閣府『男女共同参画白書（令和4年版）』（2022） ルドヴィクァ・ガンバロ他著『保育政策の国際比較』（2018） 小熊英二『日本社会のしくみ 雇用・教育・福祉の歴史社会学』（2019）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>※発表担当でない日も必ず資料を事前に講読し、キーワードの意味や関連資料及び新聞等を調べて演習に臨むこと。</p> <p>※本演習は下記いずれかに該当する学生の受講を希望する。コースについては問わない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職課程を履修しているもの</li> <li>・将来指導者等として子どもに関わろうとするもの</li> <li>・子どもや教育の問題について関心のあるもの</li> <li>・人々の生活・文化・社会の国際比較に興味があるもの</li> </ul> <p>※本演習受講者（特に教職課程を履修せずに本演習を希望する者）には「教育学」（前期開講）の受講を勧める。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介および演習の進め方を説明する。	予) シラバスの確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ホスピタリティ・ルーブリックを用いて前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別面談を行う。	予) 前学期の省察と本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	論評会①	夏季休暇中の課題であった課題図書の評読会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) レジュメをもとに議論を振り返る
4	論評会②	夏季休暇中の課題であった課題図書の評読会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) レジュメをもとに議論を振り返る
5	論評会③	夏季休暇中の課題であった課題図書の評読会を行い、各自が課題図書について作成したレジュメを用いて発表する。	予) 発表レジュメの作成 復) レジュメをもとに議論を振り返る
6	興味関心を高める	各自興味を持った世界の子育て・家族・ジェンダー・労働に関する新聞記事を紹介する。また本演習で国際比較を試みたいテーマまたは国を受講者全員で一つ決定する。	予) 新聞記事の収集と発表準備 復) 議論を振り返る
7	基礎知識の確認をする①	決定したテーマまたは国に関する基本的な語句や事項を確認し、理解を深める。	予) テーマまたは国に関する基本事項の整理 復) テーマまたは国に関する基本的な語句や事項の復習
8	基礎知識の確認をする②	決定したテーマまたは国に関する基本的な語句や事項を確認し、理解を深める。	予) テーマまたは国に関する基本事項の整理 復) テーマまたは国に関する基本的な語句や事項の復習
9	興味関心を深める①	決定したテーマまたは国に関する国際比較のデータや資料を概観する。	予) テーマまたは国に関するデータや資料の収集 復) データの見直し
10	興味関心を深める②	決定したテーマまたは国に関する国際比較のデータや資料を概観する。	予) テーマまたは国に関するデータや資料の収集 復) データの見直し
11	報告手法・情報収集の方法を習得する	報告手法(担当者の割り振り、レジュメやスライドの作成方法・形式、プレゼンテーションの方法など)を説明する。情報収集(文献・インターネット等)の方法について説明し、情報収集を始める。	予) プレゼンテーションの手法について調べる 復) 報告手法の確認
12	報告の準備をする	報告手法について再度確認し、担当テーマまたは国について報告する準備をする。	予) 資料の収集と報告準備 復) 報告準備の継続
13	報告・議論する①	担当者がレジュメやスライドを用いて担当テーマまたは国について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 資料の収集と報告準備 復) レジュメをもとに議論を振り返る
14	報告・議論する②	担当者がレジュメやスライドを用いて担当テーマまたは国について報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 資料の収集と報告準備 復) レジュメをもとに議論を振り返る
15	報告・議論する③	日本と世界の子ども・家族・ジェンダーに関する価値観の違いについて本演習で学んだことを整理し、各自発表する。春のオリエンテーション日程等を確認する。	予) 発表準備 復) レジュメをもとに議論を振り返る

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	尾場 均		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
放送用プロ機材を使った映像作成と FM 放送の実践をおこない、番組を制作、放送でメディアリテラシーを学ぶ。資格取得を目指す。(コンピュータ関連・色彩検定・ビジネス著作権・インターネット情報士など) 国際観光学科で学んだ観光に関する知識を活かし実践的な情報発信の能力と情報における判断能力を身につける。佐世保市中心市街地および佐世保市のまちづくりに関する調査活動や IT 関連の教育活動などを実践する。昨年度は FM 放送の番組に加え、渋谷・佐世保短編映画祭の実践や地域活性化イベントを実施した。							⑥ ⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	情報機器や情報技術の出来事に常に関心を持ち、正しく理解することができる。				課題レポート (ポートフォリオ)	10%	
情報収集、分析力	発信する情報内容に責任を持ち、情報の真偽を判断することができる。				課題レポート (ポートフォリオ)	30%	
コミュニケーション力	情報に関するツールを使いこなし、プレゼンテーション力を身につけることができる。				課題提示に対する放送によるプレゼンテーション	40%	
協働・課題解決力	地域活性化とイベントに関心を持ち、専門演習での活動に積極的・意欲的に参加することができる				授業態度・活動への参加度	10%	
多様性理解力	社会人として必要な幅広い教養的知識を身につける。				文献を要約	10%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
活動への積極的な参加態度、グループディスカッションでの内容、ポートフォリオ・Web による情報交換の活用度、地域連携活動、映像などの制作・ラジオ番組に必要な取材および原稿内容と発表内容を評価する。情報コンテンツの理解と開発内容、検定試験への取り組み、SNS による情報発信、地域における調査やイベントの企画・実施等のフィードバックは、ポートフォリオを通して行う							
授業の概要							
インターネット等の新しい技術を使って観光情報について実践で学ぶため、必ず個人の情報機器を使用する。企画やディスカッション、プログラム開発は演習室にて自分の情報機器でおこなう。まちづくりや放送に関する演習は中心市街地に設けられた放送スタジオ、および現地にて実施する。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。							
教科書・参考書							
教科書：なし 参考書：なし 指定図書：『伝える力 2』 PHP ビジネス新書							
授業外における学修及び学生に期待すること							
授業外で多くの活動を実施するが、欠席なく積極的に参加することを期待する。情報機器や放送機器の活用により、情報コンテンツの企画力・実践力を身につけ、まちづくりや地域振興に関係する人々と出会い、一緒に参加し専門知識や社会人基礎力を身につけることを期待する。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	専門演習の導入	演習の説明および授業における到達目標の決定 検定試験への準備（内容把握）	予：事前に研究室ホームページを参照し活動内容を理解
2	番組視察	放送現場の視察およびまちづくりに関する活動	予：活動拠点・スタジオの場所を把握する。
3	ポートフォリオ・Web 登録と演習	ポートフォリオ・Webの登録と演習 個人目標設定のための面談を実施する	予：SNSの登録とメールアドレスを準備
4	インターネット基礎	インターネットの仕組み 検索術・画像・データ管理	予：通信機器を準備
5	テーマを決める	地域活性化のテーマをグループで決定して目標を明確にする。	予：地域活性化事業の事例を集めること
6	検定試験への取り組み	多種多様な検定試験へ向けての演習（実践系の資格）	予：規定様式の書式や設定を事前に確認
7	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
8	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
9	イベント計画	テーマに関するスケジュールの制作	予：開催日から逆算してスケジュールを決定する
10	イベント準備	イベント実行のための調査	予：開催場所の調査・確認
11	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
12	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
13	番組制作	番組作成のための調査・取材実践。放送原稿の作成	予：番組テーマの決定
14	情報発信	番組出演、まちづくりに関する活動	予：作成原稿の確認と読み合わせ
15	成果発表	情報発信メディア（TV、ラジオ、インターネット）を通じて成果を発表する。	予：発表準備・担当を明確にする。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	佐野 香織		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ことば、文化、社会の学びのうち、多様な人々と生きていく社会をつくることばを考え、発信する力を養うことを目的とする。							①④⑤⑥⑧⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	ことばをつくるための手法（インタビュー、分析、表現方法）の基礎知識を理解することができる。				インタビュー記事	15 %	
情報収集、分析力	身近な課題の情報収集をし、分析、考察することができる。				資料作成 事前・事後学習	10 % 20 %	
コミュニケーション力	他者に課題を分かりやすく説明し、話し合い検討することができる。				インタビュープロジェクト 発表	45 %	
協働・課題解決力	グループで課題発見活動を協働することができる。				相互評価 自己評価	10 %	
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
本演習で学んだ基礎知識に関する理解と考察（事前・事後学習、インタビュー記事）で45%、インタビュープロジェクトで45%、授業で行うグループディスカッション、活動参加貢献、協働での学びへ評価（自己、相互評価）で10%、で評価する。各課題のフィードバックは授業内で行う。							
授業の概要							
本演習では、多様な人々と生きていく社会をつくりながら考える実践をしていきます。実際に社会をつくりながら実践をしている人にインタビューをすることを通して、「聞き取る」こと、「発信すること」を経験し、社会にことばをつくることを考える。 スケジュールは変更することがある。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：演習内で指定する。適宜ハンドアウトを配布する。 参考書：適宜紹介する 指定図書：桜井厚 『インタビューの社会学』 せりか書房							
授業外における学修及び学生に期待すること							
このゼミは、様々な観点からことばで人と社会をつなぐ実践をしてみたい学生を対象としています。学内外で色々な人と会って話すことが好きな人、主体的にプロジェクトができる学生に向いています。留学生が受講する場合は、事例を読み解くことができること、自分のことばでまとめながら資料セッション運営できること、記事や報告レポートを書き発信することができる日本語力が必要です。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、本演習の目的、方法論の説明 目標、スケジュール、課題の確認	自己紹介準備
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期に学んだことをふりかえり、担当教員と共に本 学期の個人目標をたてる	学期の予習：個人ポートフ ォリオの作成 復習：個人ポートフォリオ の見直し
3	文献、資料調査	目的の確認、インタビューの問いの設定 ブレインストーミング	予習：ハンドアウトを読み 問いにこたえる 復習：まとめを書く
4	文献、資料調査	インタビュー手法に関する文献購読	予習：ハンドアウトを読み 問いにこたえる 復習：まとめを書く
5	ワークショップ①	外部講師によるインタビューワークショップ	予習：資料精読 復習：省察シート
6	インタビュープロジェクト ①	インタビュー ①	予習：タスク 復習：省察シート
7	インタビュープロジェクト ②	インタビュー ②	予習：資料精読 復習：省察シート
8	インタビュープロジェクト ③	ピア活動	予習：タスク 復習：省察シート
9	インタビュープロジェクト ④	インタビュー準備	予習：資料精読 復習：省察シート
10	インタビュープロジェクト ⑤	インタビュー準備	予習：タスク 復習：省察シート
11	ワークショップ②	外部講師による編集・発信ワークショップ	予習：ハンドアウト精読 復習：資料を考える
12	発表準備①	セッション運営準備	予習：資料案を書いてくる 復習：資料修正、提出
13	発表準備②	セッション運営準備	予習：セッション準備 復習：省察シート
14	発表①	セッションを運営し、ディスカッションに参加する	予習：セッション準備 復習：省察シート
15	発表②	セッションを運営し、ディスカッションに参加する	予習：資料セッション準備 復習：省察シート
16	ふりかえり	今学期の学びとセッションのふりかえりを行い、次学 期の学びを考える	予習：これまでの省察 個人ポートフォリオ記入 インタビュー記事作成

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	城本 高輝		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブラーニングの類型
世界自然遺産、世界文化遺産は、日本全国の旅行者を魅了しています。日本の各地域はこれらの観光資源を積極的に活用し、地域の経済活性化に取り組んできました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大により、自由に旅行に行く事が難しくなりました。本来、学生時代に旅行に行くことは、非日常を過ごすだけでなく、様々なエリアの文化、食、観光を五感を通して経験できる貴重な機会となります。この授業では、世界遺産の知識を活用しながら、地域連携活動の魅力を理解し、地域連携活動を通して、コミュニケーション力、プレゼンテーション力を身に付けてもらいます。							①⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	学内教育を中心として基礎的な手法を学び、あらゆる部分で専門的な経験が身に付きます。				・発表会	10%	
情報収集、分析力	ワード、エクセル、パワーポイントなど基本的な情報処理ができる技術が身に付きます				・課題レポート	30%	
コミュニケーション力	演習の随所に学生間での交流機会を設け、発表の機会を経験することで自己表現力が身につきます。				・発表の表現力	40%	
協働・課題解決力	観光全般についての理解力と創造力が身に付きます。深く考えることで自らの思考力を磨くことができます。				・発表前の表現力	10%	
多様性理解力	学校で学んだ観光に関する基本的な知識をもとに、観光学の観点から世界の多様性を理解できます。				・試験	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
グループ内でのコミュニケーション力と情報収集、分析力に対する達成率を重視します。課題レポートも随時行い、全員の発表会も開催します。授業の出席率、授業態度、および学習実績を参考としながら評価します。							
授業の概要							
この授業では、日本全国の世界自然遺産、世界文化遺産、有名観光地を地域ごとに紹介し、世界遺産の観光業における役割を講義します。現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自由に海外旅行をするのが難しい状況になっています。この授業でしか学べない面白い観光地も紹介します。全員で、世界遺産検定資格取得を目指します。また、この授業で学習した知識を活用して、地域連携活動を実施し、プレゼンテーションをしてもらいます。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							

教科書：なし、参考書：随時、プリントを配布します。

授業外における学修及び学生に期待すること

準備学習は、自分の興味のある世界遺産、有名観光地を調査し、理解することです。新型コロナウイルス感染防止の観点から、今年はインターネット、テキスト等で調査することが基本となります。また、企画書などの表現力、プレゼンテーション力の向上を意識した学習も必要です。観光を学びながら、「社会人基礎力」を身に付けることを推奨します。学生の間には、世界遺産検定の受験も推奨します。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	全体の流れ	すべての内容とスケジュールの説明、それに将来に向けて期待すること、達成目標を説明します。	シラバスを十分読み込み、疑問があれば事前にまとめる。
2	個人面談、地域連携活動ミッション提示	前学期の省察を行う。個人目標設定のための面談を実施する。ミッションを理解し、魅力のある地域連携活動について考える。	インターネット、ガイドブックなどで情報収集する。
3	地域連携活動①グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
4	地域連携活動②グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
5	地域連携活動③グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
6	地域連携活動④グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
7	地域連携活動⑤グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
8	地域連携活動⑥グループワーキング	ミッションに応じた地域連携活動についてグループで議論する。	リーダーの下で、議論を整理する。
9	地域連携活動①フィールドワーク	ミッションに応じた地域連携活動についてフィールドワークする。	リーダーの下で、現地活動をする。
10	地域連携活動②フィールドワーク	ミッションに応じた地域連携活動についてフィールドワークする。	リーダーの下で、現地活動をする。
11	地域連携活動③フィールドワーク	ミッションに応じた地域連携活動についてフィールドワークする。	リーダーの下で、現地活動をする。
12	地域連携活動④フィールドワーク	ミッションに応じた地域連携活動についてフィールドワークする。	リーダーの下で、現地活動をする。
13	地域連携活動⑤フィールドワーク	ミッションに応じた地域連携活動についてフィールドワークする。	リーダーの下で、現地活動をする。
14	地域連携活動①プレゼンテーション	グループごとに地域連携活動のプレゼンテーションを行う。	グループごとに事前にプレゼンテーションを準備する。
15	地域連携活動②プレゼンテーション	グループごとに地域連携活動のプレゼンテーションを行う。	グループごとに事前にプレゼンテーションを準備する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	竹田 文雄 (実務経験のある教員)		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>専門演習 IA で実践した実務的な観点からの学修を継続します。力点を置きたい課題は以下のとおり。</p> <p>①「知り得た知識を自分の意見として言葉や文章で発信する際の表現力の強化」</p> <p>②「主体性・ホスピタリティ」</p> <p>OODA ループにあてはめて演習の進捗を確認する訓練も試みる予定。</p> <p>具体的な学修プロセスは専門演習 I A を踏襲します。</p>							①②⑩⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							%
情報収集、分析力	マスメディア、ネットワークメディア等の活用ができる。 (自分の考えを裏付ける情報の収集と、それら情報の取捨選択。)				・プレゼンテーション		20%
コミュニケーション力	自らが率先してイタリア語を話してみるという確固たる意志を持ち、毎回の課題に積極的に参画できる。				・討議参画 ・プレゼンテーション		30% 30%
協働・課題解決力	グループ討議の実践と、その場の取り纏めができる。 (アウトプットの実行。)				・討議参画		20%
多様性理解力							%
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>何事にも積極性を求めます。特に「発音練習」、「ディスカッションの場での積極的な発言と事前準備の有無」に着目します。週次の演習を「どのように準備して、どの様に考えて、どの様に表現できたか？」の観点にて、「成長度合い」、「参画意識」、「プレゼンテーション等のアウトプット成果」の3つの要素を主な評価軸とします(評価比率は上掲)。諸々のフィードバックは、授業時間内に、またはポートフォリオを用いて適宜実施していきます。</p>							
授業の概要							
<p>初回から最終回まで、イタリアを旅行する時に最低限知っておきたいイタリア語のフレーズや言い回しを、メンバー全員で「声に出して学ぶ」ことを基本とします。あいさつや自己紹介などの基本的フレーズからはじめて、2往復以上の会話までを学びます。「イタリア語会話」へのチャレンジをすべてにおいての基本とするので、バンバン話してもらいます。授業スキームは「メンバー学生の発言・コメントを担当教員が聴く」ものであり、「担当教員がメンバー学生に対して聴かせる」ものではありません。学外調査等での授業振り替えの可能性があり、効果が期待出来る際は担当教員の判断でテーマ補正を行います。標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とします。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書/参考書：『30日で話せるイタリア語会話』：アレッシオ・コッポラ ナツメ社</p> <p>指定図書： 『30日で話せるイタリア語会話』：アレッシオ・コッポラ ナツメ社。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習のキーワードは「好奇心」。 あたらしいことを会得する楽しさや喜びを感じてもらうことに重きを置きますので、学生の皆さんの自発的な積極性に期待します。そして「第2外国語はイタリア語」と言ってみたくて参加に期待します。なお、自ら発言しようという気概の無い学生、「わかりません」「特に何もありません」が口癖の学生、指名されても「無言」の学生、克己しようとする気概の無い学生にとっては、毎回の演習は苦痛をとまなう時間となり、また他のメンバーにも迷惑をかけることにもなるので、当演習は向いていません。</p>							

回	テーマ	授 業 の 内 容	予習・復習
1	全体の導入	演習 IAの結果を踏まえて、IBでの方向性や各自の問題意識の持ち方を確認。 演習全体の方向性の再確認。	予：シラバスの読込み。 3分決意表明の準備。 復：何を指すのか？を あらためて考える。
2	個人面談・目標設定	演習開始に際するメンバー個々の興味の確認。個人目標の設定、等。	予：目指す事を5分間で 発表する為の準備。 復：個人目標の確定。
3	話しかけてみよう (7)	・好みを聞く。 ・意味を聞く。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
4	話しかけてみよう (8)	・相手にすすめる。 ・デートに誘う。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
5	話しかけてみよう (9)	・許可を求める。 ・依頼する。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
6	会話してみよう (1)	・道を聞く。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
7	会話してみよう (2)	・注文する。	予：テキストでの予習。 復：実際に話しかける。
8	会話してみよう (3)	・相手をほめる。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
9	会話してみよう (4)	・電話で話す。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
10	会話してみよう (5)	・時間を聞く。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
11	会話してみよう (6)	・選択する。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
12	会話してみよう (7)	・連絡先を聞く。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
13	会話してみよう (8)	・文化について。	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
14	後期総括	「話しかけてみよう」「会話してみよう」の総括	予：テキストでの予習。 復：実際に話してみる。
15	通期総括	所感のシェアを実施。	予：シェアトピの準備

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	森尾真之		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
地域の観光素材に対する認識を深め、持続的な地域観光の実現のための滞在型観光構築に資する企画造成を研究します。地域観光素材の活用事例の学習においては、利益、関係者メリット、継続性についての分析ができることを目標とします。そのうえで既存の地域観光素材の再定義を行い、対象とする具体的な市場ニーズに合わせた新たな価値創造のための商品事業化の手法を学びます。							②⑥ ⑦⑫
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>旅行業および観光業の成り立ちを理解する。</li> <li>現在直面している地域課題と市場の動向について理解する。</li> </ul>				企画書作成		20%
情報収集、分析力	域内の旅行業・観光業に関する最新の情報に触れ、同様の事例情報の収集や、関連する地域のテーマと比較して検討することができる。				・授業への積極的な姿勢		30%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>論点が整理され、簡潔でわかりやすい表現ができる。</li> <li>課題に積極的に取り組み、メンバーの考えを尊重しつつ、自分の考えも説明することができる。</li> </ul>				・プレゼンテーション		40%
協働・課題解決力	自分の役割を設定し、グループでの企画書作成作業に貢献する。				・授業への積極的な姿勢		10%
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>「授業への積極的な姿勢」(40%)は、出席に加え討議をまとめるなどのリーダーシップやグループ内での率先垂範、メンバー支援などを総合的に判断します。</p> <p>「レポート」(20%)は内容の論理性・独自性を重視して判断します。</p> <p>「プレゼンテーション」(40%)は、様式や見やすさに加え、内容、発表態度などをもとに評価する。</p> <p>フィードバックは、レポート返却時及びポートフォリオを通して行います。</p>							
授業の概要							
主にテーマ別観光の種類、地域課題の背景との関連性、具体的なニューツーリズムの事例研究を通じて、着地型商品企画造成のための基礎知識の習得を図り、グループワークによる商品事業案の策定を行います。また事業案の実施を通し、地域の課題解決につなげる視点を身に着けます。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とします。							
教科書・参考書							
教科書/参考書：『図解でわかるSDGs』平本督太郎（メイツ出版） 指定図書：『持続可能な地域の作り方』寛裕介（英治出版）							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習では現実的に実施可能な企画の手法の研究と実践を目標と、多くの学外機関の方との連携や協力が不可欠です。社会に役に立つ企画を実現させるという高い目標意識をもち、学内外での多くの活動、自主的な調査など授業以外での活動へ積極的に参加する学生の受講を期待します。また、プレゼンや企画書面の作成など表現スキルの向上に取り組むことも期待します。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	演習概略およびゼミの運営方法を確認する。	(予習) 事前にシラバス及び演習概略に目を通してくる。
2	個人目標の設定	個別面談による I A の振り返りおよび I B 目標設定	(予習) 自身の興味・関心をまとめてくる
3	地域観光課題解決のための取り組み①	演習課題の概要と背景について学ぶ	(予習) 観光庁の HP などを見て事業の実態を確認
4	地域観光課題解決のための取り組み②	課題のテーマの選別と論点整理、グループ編成とテーマ設定 (対象地域の絞り込み)	(予習) 自分の町の課題についてまとめてくる。
5	地域観光課題解決のための取り組み③	テーマ課題についての具体的な事例研究	(復習) 事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
6	地域観光課題解決のための取り組み④	事例研究に従って、情報収集と活動内容の検討	(復習) 事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
7	地域観光課題解決のための取り組み⑤	情報収集と活動内容の検討	(復習) 事例のポイントを確認する。同様の事例を調べる。
8	地域観光課題解決のための取り組み⑥	これまでの予備学習について各自レポート作成・発表。	(予習) 自分の関心テーマを考えてくる。
9	テーマ案発表と立案企画フレームの精査	各チームのテーマを発表・全員で討議 企画テーマの内容や方向性を確認	(復習) 企画イメージをまとめる。
10	グループワーク	関連データの収集、調査内容の整理・検討およびスケジュールリング確認。	(予習) 調査対象の絞り込み。
11	グループワーク	フィールドワーク (事業パートナーとの打ち合わせ、想定利用施設の視察など)	(予習) 調査ポイントの詳細な確認
12	グループワーク	グループごとの進捗・経過の発表	(予習) 発表内容の論点確認
13	グループワーク	企画案の内容確認・精査	(予習) 自分の調査分野での論点を確認。
14	グループワーク	プレゼンテーション準備	(予習) 発表準備
15	まとめ	グループごとに企画案プレゼンテーション。 意見交換と演習全体のふりかえり。	(予習) グループでの発表の確認

授業科目(ナンバリング)		専門演習 I B (CF202)		担当教員		山内 美穂	
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
この演習では、ことばや異文化理解について考えます。「ことば」の背後にある「ルール」を見出すことを通して、考える力や発見する力、説明する力を養います。また、演習を通して異文化理解や多文化共生社会におけるコミュニケーションについても考えます。							①④⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	自分が担当した「問い」の答えについて分かりやすい資料を作れる。テーマに沿って調べ、プレゼンテーションできる				発表資料 プレゼンテーション	20% 20%	
コミュニケーション力	自分が担当した「問い」の答えについて自分のことばで説明できる。他人の発表に対して意見を述べられる。グループメンバーと協力して発表やプレゼンテーションの準備ができる。				発表 議論 発表準備	30% 20% 10%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
自分の担当箇所の発表資料の作成で20%、授業での発表で30%、プレゼンテーションで20%、授業の議論への参加で20%、発表準備の状況で10%を評価します。発表内容、プレゼンテーションに関しては、授業中または個別にコメントの形でフィードバックします。							
授業の概要							
履修者は、テーマに沿って教員が投げかけた「問い」について考え、議論しながら、ことばや異文化理解について学習します。また、各テーマの発表者は、授業の中で出されたテーマに対して十分に考え答えを準備しておき、授業の中で発表します。発表者以外の人、配布した資料の該当箇所を読みこみ、積極的に質問やコメントし、全体でディスカッションします。その他、いくつかの演習を通して、ことばについて、また、さまざまな文化背景を持つ人が暮らす社会や観光の在り方について考えます。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分です。							
教科書・参考書							
教科書：授業中に指示する 参考書：磯野英治『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店，2020 指定図書：磯野英治『言語景観から学ぶ日本語』大修館書店，2020							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習は、ことばに関心がある学生や、異文化理解や多文化共生社会に興味がある学生の受講を希望します。留学生の受講に関しては、授業内容が理解でき、自分のことばで説明できるレベルが必要です。 授業外でも目や耳に入る「ことば」に敏感になって下さい。また、全国各地出身の仲間と協働することを楽しんでほしいです。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	本演習のねらい、進め方、発表などについて説明する。	予習：前期の課題のレジュメ作成
2	前学期の省察と本学期の目標設定	ゼミ担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する。	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	多文化共生社会って①	多文化共生社会について考える	予習：配布プリント「多文化共生」を読んでおく 復習：教員の出す「問い」について答えをさがす
4	多文化共生社会って①	グループ発表	予習：教員の出す「問い」について答えをさがす 復習：多文化共生について考え振り返りシートを書く
5	言語景観	「言語景観」について理解する。「言語景観」フィールドワークの計画を立てる	予習：配布プリント「言語景観」を読んでおく 復習：自分が住む場所の「言語景観」を観察・撮影
6	言語景観 フィールドワーク①	「街のことば」フィールドワーク① 教員とともにフィールドワーク実習	予習：「言語景観」の復習 復習：グループごとにフィールドワークの計画確認
7	言語景観 フィールドワーク②	「街のことば」フィールドワーク② グループごとにフィールドワーク	予習：グループごとのフィールドワークの計画確認 復習：発表準備
8	言語景観 調査結果発表	「街のことば」について発表	予習：発表準備 復習：他の人たちの発表のピア評価
9	インタビュー①	インタビューとは	予習：配布プリント「インタビュー」を読んでおく 復習：配布プリントを使って復習
10	インタビュー②	インタビュー調査発表	予習：発表準備 復習：他の人たちの発表のピア評価
11	期末プロジェクトプラン ジョイント授業準備	期末のグループプロジェクトのテーマを決める ジョイント授業準備	予習：ジョイント企業について調べてくる 復習：グループごとに期末プロジェクトプラン確認
12	ジョイント授業	地元企業とジョイント授業	予習：ジョイント企業への質問を準備 復習：感想を書く
13	期末プロジェクト準備	グループごとにこれまで学習した内容をもとにテーマを決め期末研究を行う。この回は調査準備	予習：これまで学習した内容を振り返る 復習：調査準備
14	期末プロジェクト調査	調査またはフィールドワーク	予習：調査計画確認 復習：グループごとに発表への準備
15	期末プロジェクト発表	グループ演習期末発表	予習：発表準備 復習：他の人たちの発表のピア評価

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	井畑敦子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
IA で基礎を修めた文化人類学の応用として観光人類学について学ぶ。それまでに培ったクリティカルシンキングで観光を捉え直し、次世代の新しい観光像を模索する。自文化から空間的に脱することは、物理的に異文化に触れその理解に近づくことを可能とし、「観光」はその契機となる。始まりとなる旅はその冒険の糸口であり、世界との出会い方、理解の仕方を経験的に導く。オープンに開かれた異文化体験の過程で光が当てられる非日常は、される側にとっては自明の連続的な日常であるが、観光がもたらす双方向の「発見」は、互いに見過ごしていたコトに気づかせ、自らを再帰的に振り返る契機となる。							②④⑥⑦ ⑧⑩⑪
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	他者理解・異文化コミュニケーション・多文化共生など文化人類学がもととなる観光関係の基本概念を授業での学びをもとに関連文献を調べ、自分なりに思考分析して本質的な説明できる。				・レポート ・討議参画 ・グループワーク	30%	
コミュニケーション力	多様な存在様式、捉え方を踏まえ、全体的な視座からメタ認知し、最善のファシリテーションと場の力を引き出すことができる。				・レポート ・討議参画 ・プレゼンテーション	40%	
協働・課題解決力	プレゼン発表に向けて、課題を的確に把握し、仲間と協力して解決に向けた方策を立案し、調べ、着実に実行できる。グループワークを通して自己表現能力を高め、異なる意見を尊重し、化学反応をもって新しい知を生み出すことができる。				・討議参画 ・グループワーク ・プレゼンテーション	15%	
多様性理解力	異文化における観光のあり方を理解し、その背景とデモグラフィックな違いを把握し適応できる。異なる意見や見方を尊重し学ぶ姿勢を持つことができる。				・討議参画 ・グループワーク ・意見の陳述	15%	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>グループワークを基盤として授業を進行し、授業で使用するマテリアル提示や課題の提出とその評価は、この ICT をプラットフォームとする。添削や学生同士の振り返りなどフィードバックを双方向に機能的にし、評価に見える化するねらいがあり、初日に使い方を説明する。全過程を通じた成長と論理的思考能力の向上、課題解決や自己分析、表現の変化などに評価軸を置き、筆記試験は行わない。プレゼンの発表だけでなく、それに至る過程、取り組み姿勢、事前準備、特にフィールドワークやグループワークなど実践を通じた学びをより重視する。故に、目に見える受講態度だけではなくオフクラスでの取り組みが反映される提出物に重きを置く。中でも、リアクションペーパーによって授業を構成する為、アカデミック・スキルを駆使し、独自性のある洞察、分析によりクラス運営に貢献すると思われるフィードバックを積極的に評価する。参加型の演習なので、無断欠席の場合は該当授業のポイントは与えられないので、注意すること。</p>							
授業の概要							
<p>この授業は PBL であり、関心がある課題解決型学習をプロジェクトとして取り組み、文化人類学的理論と手法でアプローチしていく。構成としては反転授業となり、授業前半で得たインプットを後半のグループワークでアウトプットし、オフクラスでは、授業全体で得たインプットを次の授業に生かすために復習し、グループワークやディスカッションをより豊かなものにしていくことが望まれる。また、プロジェクトの発表として中間と最終日にフィールドワークや授業のインプットを反映したプレゼンテーションをグループで行う。講義では、個々の内容に関連したビジュアルエイドや動画などを積極的に取り入れながら楽しく共に学び、English for Specific Purpose (E S P) として観光を通して英語が学べるよう、共通言語を英語とする。アクティブに参加できるようにフレーズやいいまわしなど必要と思われる単語や表現を前もって予習して臨むこと。この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、45 分とする。基本的な構成としては、前半が概念的な理解、後半が理論的実践で知識の体得と経験知を深める。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『旅と観光の人類学』 橋本和也 著 新曜社 2022 年 参考書：『人類学者は異文化をどう体験したか』 桑山 敬己 ミネルヴァ書房 2021 年</p>							

指定図書：『基本概念から学ぶ観光人類学』 市野澤潤平 編 ナカニシヤ出版 2022年  
 :『自然と文化を超えて』 フィリップ デスコラ 著 水声社 2020年

授業外における学修及び学生に期待すること

文化人類学は、観光の基盤となる異文化コミュニケーションや多文化共生など、観光理解の基盤となる領域を専門的に蓄積してきた学問である。その知見とアプローチを将来国際観光で活躍するための素養として身につけ、自己認識や他者理解を実践的に深めることで、多様な文化や存在様式を尊重できる国際人としての素地を作ってほしい。アクティブラーニング科目であるので、自律的主体的に参加し、向上心と好奇心をもって自ら問いを投げかけ、新しい知を構築するため能動的で積極的な取り組みであるほど、吸収できるものも豊かで深いものになる。学際的な広い見地から観光を捉え直し、好奇心をもって新しいこと知識を得て、学ぶということの本来の楽しさを分かち合いたい。

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	全体の導入	IA のアウトカムを踏まえ、方向性や各自の問題意識の持ち方等を確認する	シラバス及び演習概略に目を通し、目標達成度を自己評価しておく
2	面談・省察	これまでの成果を振り返り、到達目標の進捗状況や各自の問題意識の持ち方等を確認し、新たな目標設定を行う	本学期に向け新たな目標案を検討しておく
3	文化人類学とは	IA で学んだことの振り返り	「人類学とは何か」などIA の資料を読んでおく
4	観光人類学とは (1)	「観光」「旅」について再考する	教科書を読みこみ、自分なりの観光人類学を捉える
5	観光人類学とは (2)	「ランドスケープ」「場」など空間認識から考える	教科書を読みこみ、自分なりの観光人類学を捉える
6	観光人類学とは (3)	「環境」「エコロジー」について生命活動から考える	教科書を読みこみ、自分なりの観光人類学を捉える
7	ハウステンボスとは (1)	観光人類学の概念で身近な現象を捉え直す	フィールドワークして思考する
8	ハウステンボスとは (2)	観光人類学の概念で身近な現象を捉え直す	フィールドワークして描写する
9	中間発表	授業でのインプットによって変化した観光概念を具体例とともに共有する	観光人類学の定義とケーススタディの発表
10	方法論について	観光人類学のコンテキストから、フィールドワークの意義と技法について学ぶ	観察と質問について調べておく
11	観光人類学の諸問題	「真正性」と観光文化、開発について近代の視点から再考する	これまでの概念を整理し、再確認しておく
12	課題設定 (1)	教科書の理解をベースに、自らの関心領域を発掘する	教科書を読みこみ、観光人類学的課題を探す
13	課題設定 (2)	教科書の理解をベースに、自らの関心領域を発掘する	教科書を読みこみ、観光人類学的課題を探す
14	専門演習 I 全体の振り返り	1年生の演習で学んだことを省察し、次の学年での学びや自分の将来にどの様につながるのかを考える	専門演習 I 全体で学んだことを再確認する
15	まとめ	各自が半期の研究を振り返り、まとめの発表を行う	半期のまとめ発表の準備をする

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	浦郷 淳		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>本演習のテーマは「探究の姿」である。「探究」とは様々な場面で使われる用語であるが、ここでは学校教育における「探究」に焦点をあてる。小学校・中学校・高等学校で受講者が学修してきた「探究」を振り返った上で、様々な事例から探究の姿を分析し、その姿とのかかわり方を整理し、自らの学修が「探究」となる術を身に付けられるよう導きたい。演習では、文献や報告書と照らし合わせながらレジュメを作成、発表し、質疑応答・議論をする中で「探究」について追う。その過程で、情報を整理・分析する能力、集めた情報を的確に表現し、論理的に示す能力、ディスカッションを通して受講者相互の相違を理解する多様性の理解力、これら基礎力の養成をはかりたい。</p>							③⑤⑥⑧
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	データや資料等の文献を的確に分析することができる。 発表を基に、自身が経験した「探究」を整理することができる。				レジュメ レポート等	20% 20%	
コミュニケーション力	レジュメを用い、聞き手を意識した表現ができる。 テーマに関して、他の受講者と質疑応答・議論に参加できる。				発表・応答 質疑応答・議論	20% 30%	
協働・課題解決力							
多様性理解力	自らの経験と他者の経験の違いを理解し、経験の多様性について尊重した上で議論することができる。				質疑応答・議論	10%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 評価については、レジュメの様式・内容を 20%、発表と質疑応答・議論を 60%、発表と議論の振り返りとなるレポートを 20%の比率で評定する。</li> <li>○ レジュメは、①様式の順守②引用文献のルール順守③事実と考察、分析の的確さ④自らの学修の履歴の整理等で評定する。レジュメの作成方法については演習中に例示し、随時修正個所の指摘やアドバイスを行う。</li> <li>○ 発表後のレポートは、①議論を受けた加筆修正②自らの学修の履歴の整理等で評定する。</li> <li>○ 発表者は、①聞き手を意識した資料の用意と発表の様子②質問の意図を理解した応答等で評定する。</li> <li>○ 質疑・議論では、①端的な質問②相手を尊重した議論で評定する。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>授業については、概ね次の手順によって進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自身の「探究」学習の経験について表出し、整理し、分析する手段について理解する。</li> <li>2. 学校内における「探究」について、指定した幾つかの資料を基に発表する分担を決める。</li> <li>3. 「探究」について、分担してレジュメを作成して議論する。発表の様式については授業中に説明する。</li> <li>4. 発表を通して得たことを整理し、レポートを作成する。レポートは発表担当後に提出する。様式については授業中に説明する。</li> <li>5. この授業の標準的な 1 コマあたりの授業外学修時間は、60 分とする。</li> </ol>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない（資料は適宜配布する）  参考書：藤原さと『「探究」する学びをつくる：社会とつながるプロジェクト型学習』平凡社（2020）  指定図書：田村学『「探究」を探究する―本気で取り組む高校の探究活動』学事出版（2017）  文部科学省「学習指導要領」※授業で説明する。</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 担当外の論考も必ず読み、不明な語句は調べておくこと。また、関連資料及びニュース等には目を通しておくこと。</li> <li>2. 議論については相互の意見を尊重し、建設的なものになるよう努めること。</li> <li>3. 議論の中で出された意見等について個々に整理し、復習すること。</li> <li>4. 留学生の受講も歓迎するが、日本社会や日本の教育に関してある程度の知識があることを前提として授業を進める点を十分理解した上での受講を勧める。</li> </ol>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	自己紹介、演習の進め方を説明する。 受講者の問題意識等を共有する。	予) シラバスの確認
2	本学期の目標設定	本学期の目標を設定する。またそれを基に教員と個別 面談を行う。	予) 本学期の目標設定 復) 本学期の目標の確認
3	自らの「探究」の学修を探る	これまで経験した「探究」の学修について情報を共有 する。	予) 自身の「探究」の学習 の整理 復) 「探究」の学修の具体 をまとめる
4	「探究」とは何かを考える	学習指導要領上での「探究」について知識を得る。	予) 指定された学習指導要 領の通読 復) 学習指導要領における 「探究」の整理
5	「探究」の一般的解釈を知る	学校だけに限らず「探究」という言葉が用いられている 場面を全体で討議し、どのような場面で使われている のかを全体で議論する。	予) 学校以外で「探究」と いう言葉が用いられる場 面の検索 復) 「探究」が用いられる 場面の特徴をまとめる
6	発表の役割分担と発表方法 を知る。	担当者の役割分担を行い、レジユメの作成方法・形式、 プレゼンテーションの方法等を説明する。基本資料を 配布、説明し、情報収集を始める。	予) 学習指導要領の「探究」 部分の通読 復) 発表方法を確認する。
7	小学校における「探究」を知る	小学校における「探究」について知識を共有する。	予) 小学校学習指導要領の 「探究」部分の通読 復) 小学校の「探究」につ いての整理
8	「探究」についての発表①	小学校における「探究」について、担当者がレジユメ を用いて報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 資料の通読またはレジ ユメ作成 復) レポート作成または議 論内容の整理
9	中学校における「探究」を知る	中学校における「探究」について知識を共有する。	予) 中学校学習指導要領の 「探究」部分の通読 復) 中学校の「探究」につ いての整理
10	「探究」についての発表②	中学校における「探究」について、担当者がレジユメ を用いて報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 資料の通読またはレジ ユメ作成 復) レポート作成または議 論内容の整理
11	高等学校における「探究」を知る	高校における「探究」について知識を共有する。	予) 高等学校学習指導要領 の「探究」部分の通読 復) 高等学校の「探究」につ いての整理
12	「探究」についての発表③	高校における「探究」について、担当者がレジユメを 用いて報告し、全員で報告内容について議論する。	予) 資料の通読またはレジ ユメ作成 復) レポート作成または議 論内容の整理
13	これまでの発表を整理する	3回の発表を通して「探究」で共通する部分と違いが ある部分を全体で整理する。	予) 3回の発表内容を簡潔 にまとめておく 復) 学校における「探究」 の相違について整理する
14	学校における「探究」の必要 性と在り方について討議す る	学校における「探究」は何を求められているのかを全 体で討議する。	予) 「探究」の必要性をま とめておく 復) 議論を基に「探究」の 必要性を再度整理する
15	まとめ	「探究」について受講者が考えたことを紹介し合い、 後期の振り返りと、春のオリエンテーション日程等を 確認する。	予) 「探究」についての自 身の考えの整理

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	江島 弘晃		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
専門演習 IA および IB ではスポーツ・健康科学に関する情報を収集し、分析する能力を習得することを目的とする。とくに、健康をキーワードにスポーツとの関連性や心身統合の調和における運動の意義等を資料による解説、発表、討論を通して理解を深める。その際、学生が PC などを用いた文書・表図からスライドを作成することで、プレゼンテーション能力を習得する。IB では関連分野に関するテキスト、原著論文の輪読に取り組み、運動処方における正確な知識と理解の習得に重視する。							②⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	・ スポーツ・健康科学に関する情報を収集し、分析することで自身の競技種目又は健康管理に関する問題点を抽出することができる。				・ 情報収集	30%	
コミュニケーション力	・ ディスカッションにおいて自分自身の意見を述べる事が出来る。 ・ 自分自身が調査した内容を簡潔に発表することが出来る。				・ 発表内容 ・ 他者の主張を踏まえた議論の展開	70%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自が設定した課題・テーマに関する先行研究や資料を選択することでスポーツ・健康科学に関する情報を収集し、それらを基にした適切な要約を作成しているか否かを評価する（評価比率:30%）。また、作成した要約を自身の考察をプレゼンテーションで適切に表現し、他者の意見を踏まえた議論が展開出来ているか否かを評価する（評価比率:70%）。授業の課題は、ポートフォリオを通して行う。							
授 業 の 概 要							
スポーツ・健康科学に関するテキストや原著論文を輪読する。輪読の際、PC 等を用いて文書・表図作成またはスライド作成の技法を習得する。輪読の決定、精読、資料作成は、担当者が事前（演習授業の時間外）に準備する。反転授業を視野に入れ、輪読の報告は担当者自身がプレゼンテーションによって行い、ディスカッション（議論・討論）は参加者全員で行う。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、60分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：特に指定しない 参考書：日本体力医学会体力医学編集委員会著「運動処方の指針原書第8版」（南江堂）ISBN: 978-4-524-26216-8 指定図書：日本体力医学会体力医学編集委員会著「運動処方の指針原書第8版」（南江堂）ISBN: 978-4-524-26216-8							
授業外における学修及び学生に期待すること							
本演習を通してスポーツ・健康科学の研究分野に触れることで、自身の競技種目に反映できる、または疾病予防に向けた運動処方に応用できる基本的な知識を獲得することを望む。また、本演習ではコミュニケーション能力、課題の取り組み、プレゼンテーション能力からディスカッション能力といった社会人の素養を獲得することも目指す。そのため、挨拶や時間厳守などの基本的な社会行動を守るとともに、授業欠席などの際には事前に担当教員に連絡することが望ましい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 演習授業の進め方についての説明</li> <li>・ 個別に学業などに関する面談を実施</li> </ul>	予習：シラバスを熟読し理解する 復習：受講規則の確認
2	本学期の目標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前学期の省察を行い、各個人の本学期の目標を設定する</li> </ul>	予習：前学期の省察 復習：本学期の目標設定の確認
3	輪読の準備 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員による参考書・テキストなどの紹介</li> </ul>	予習：参考書などの通読 復習：授業で輪読した箇所の復習
4	輪読の準備 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教員による輪読・発表（当該研究分野における起源又は最新の研究内容などの発表）</li> </ul>	予習：運動処方に関する調査 復習：健康の評価について復習
5	輪読 (1)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動負荷試験①）</li> </ul>	予習：参考書などの通読 Section II 3 のレジュメ作成 復習：運動負荷試験の禁忌について復習
6	輪読 (2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動負荷試験②）</li> </ul>	予習：論文・テキストの精読 Section II 4 のレジュメ作成 復習：体力テストの内容について復習
7	輪読 (3)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動負荷試験③）</li> </ul>	予習：論文・テキストの精読 Section II 5 のレジュメ作成 復習：運動負荷試験の様式について復習
8	輪読 (4)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動負荷試験④）</li> </ul>	予習：論文・テキストの精読 Section II 6 のレジュメ作成 復習：運動負荷試験の診断能について復習
9	輪読 (5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動処方①）</li> </ul>	予習：論文・テキストの精読 Section III 7 のレジュメ作成 復習：運動処方の概念について復習
10	輪読 (6)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動処方②）</li> </ul>	予習：論文・テキストの精読 Section III 8 のレジュメ作成 復習：非健常者の運動処方について復習
11	輪読 (7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動処方③）</li> </ul>	予習：論文・テキストの精読 Section III 9 のレジュメ作成 復習：心疾患患者の運動処方について復習
12	輪読 (8)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による輪読・発表 （テーマ・運動処方④）</li> </ul>	予習：論文・テキストの精読 Section III 10 のレジュメ作成 復習：他の臨床疾患患者の運動処方について復習
13	調査計画	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関心のある研究内容を選択し、関連研究の調査</li> </ul>	予習：関心のある研究内容を自身でまとめる 復習：各自の発表内容をまとめる
14	調査計画の報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 担当者による関連研究の報告および考察 （資料・プレゼンテーションによる報告）</li> </ul>	予習：まとめた研究内容を発表するための資料作成 復習：各議論した内容をまとめる
15	総括	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 後期授業のまとめと休暇中の課題</li> </ul>	各自設定した課題などの省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IB (CF 202)			担当教員	川上 直彦		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
<p>人類の文明発祥の地で興った「古代オリエントと東地中海世界の文明（古代メソポタミア文明、古代エジプト文明、エーゲ文明、クレタ文明等）を考古学、そして古代史の演習（ディスカッション、グループワーク、発表）の観点から理解し、これらの文明が人類共有のかけがえのない文明であることが理解できる。また、なぜこれらの地が、人類共通の文明発祥の地であるのかを習得し、研究・観光資源である人類共通のかけがえのない文化遺産の宝庫であることが理解できる。観光として、古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡そして博物館・美術館を訪れた時、考古学および歴史学的視点から遺跡と展示遺物を理解するに必要な専門知識を修得することができる。</p>							①⑤⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	古代オリエントと東地中海世界の文明の遺跡・遺物、そして関連する博物館・美術館に関心を抱き、専門的課題に取り組むことにより、専門力を習得することができる。				レポート・発表	15%	
情報収集、分析力	事前学習と演習を通じて実践する、文献読解から情報収集を行い、レポートを作成することにより、読解力、分析力、そしてレポートを書く能力を習得することができる。				レポート・発表	30%	
コミュニケーション力	レポート発表を課し、発表に対する質疑応答と討議を実践することにより、コミュニケーション能力を上達させることができる。				発表	35%	
協働・課題解決力	古代オリエントと東地中海世界の文明に関連する遺跡と世界中の博物館に収蔵されている展示遺物の考古学および歴史学的意味についての発表と、発表に対する質疑応答を通じて他学生と協議することにより協働・課題解決力を習得することができる。				授業参加度	20%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
各自、3本のレポート作成とそれらの発表を実践し、発表内容および発表のスキルを総合的に評価し、全体評価の80%とする。フィードバックは、個別に口頭で行う。							
授業の概要							
<p>本演習では、人類共通の文明発祥の地に興った古代オリエントと東地中海世界の核をなすメソポタミア文明を中心に、古代エジプト文明、エーゲ文明、そしてクレタ文明等にもふれ、文献購読と配布資料を用いた演習を実施する。演習内容が十分に理解できるように、補足的に講義を実践し、また、DVDなどの視聴覚教材も補助教材として用い演習を実践する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：適宜プリントを配布する。 参考書：適宜プリントを配布する。 指定図書：世界の歴史1：人類の起源と古代オリエント（大貫良夫・前川和也・渡辺和子・屋形複貞、中央公論社）</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
古代史・考古学全般に関心を持ち、遺跡や博物館・美術館を観光する機会を持ってほしい。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	はじめに 東地中海文明（1）	演習全体の導入と説明 エーゲ海文明 1	復習：今回の復習 予習：エーゲ海文明について調べる
2	前学期の省察と本学期の目標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標を設定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	東地中海文明（2）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
4	東地中海文明（3）	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：イシン・ラルサ王朝、バビロン第一王朝と古アッシリアについて調べる
5	最古の帝国の出現（1） 古代オリエント文明	交易と交戦	復習：今回の復習 予習：エラム王国、カッシート王朝、中アッシリア、ミタンニについて調べ、理解する
6	最古の帝国の出現（2） 古代オリエント文明	都市国家の連合と対立	復習：今回の復習 予習：ヒッタイト、ラムセス2世、新王国時代について調べる
7	最古の帝国の出現（3） 古代オリエント文明	古代オリエント世界の国際化と多極化	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
8	最古の帝国の出現（4） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
9	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：今回の復習 予習：新アッシリア帝国と旧約聖書について調べる
10	最古の帝国の出現（5） 古代オリエント文明	アッシリアの台頭とそのライバル	復習：今回の復習 予習：ティグラト・ピレセル3世、サルゴン2世、エサルハドン、アッシュールパニバルについて調べる
11	最古の帝国の出現（6） 古代オリエント文明	新アッシリア帝国の再興	復習：今回の復習 予習：新バビロニア帝国、ペルシャ帝国、アレクサンドロス大王について調べる
12	最古の帝国の出現（7） 古代オリエント文明	最後の帝国について	復習：今回の復習 予習：配布資料を読む
13	最古の帝国の出現（8） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：配布資料を読む
14	最古の帝国の出現（9） 古代オリエント文明	レポート発表・添削・修正	復習：レポートの復習 予習：これまでのレポートを読む
15	まとめ	総合復習	復習：今回の復習

授業科目(ナンバリング)	専門演習 IB (CF202)			担当教員	神野 周太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
専門演習 IA に引き続き、本演習では、「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関連する問いを各自で設定し、それについての答えをみつけるための能力を培うことを目的とする。それは個人的な問題を他者と共有し、多角的な視点から共通理解となる答え（ものごとの本質）をみつけるための「哲学的思考」を展開する能力を培うことでもある。本演習では、教員や学生が共に対話（議論）を展開することを重視する。							⑤ ⑥ ⑦
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	「体育」「スポーツ」「身体」に関するニュース、コラム、評論、書籍を集め、それらを通覧する中で個人的な問いを設定できる。				・資料収集 ・問いの設定内容	30% 10%	
コミュニケーション力	「体育」「スポーツ」「身体」についての個人的な問題意識を他者と共有し、共通理解となる答えをみつけるための議論ができる。				・他者の主張を踏まえた議論の展開	60%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>議論を展開する上で、各自設定したテーマに関連する適切な先行研究や資料を選択し、それらを概観した上でレジюме（要約、自分なりの考察）を作成しているか、その内容が論理的に展開されているか（問題、テーマ、議論、答え）を評価する。</li> <li>運動やスポーツを模擬指導する上で、各自設定した種目、対象について適切な課題や教材を設定した上で指導案（指導計画）が作成されているかを評価する。</li> <li>個別テーマ研究や実技指導の後の議論では、問いを共有しそれについての意見を建設的に述べられているか、評価すべき点や改善すべき点は何かといった自身の意見を述べられているかを評価する。</li> <li>フィードバックについては、学生と個別に口頭でやりとりをする中で、理解度、達成度、課題を把握させる。</li> </ul>							
授業の概要							
<ul style="list-style-type: none"> <li>体育やスポーツの諸科学の中でも、人文科学的な研究方法に基づいて、問題を共有するためのレジюме（発表資料）や現場で必要となる指導案を作成し、適宜運動実践も交えつつ、発表内容や実践の省察を議論形式で実施する。議論については、その方法自体を学んだ上で実際に意見を交わし合う。実践については、教員希望者の場合模擬授業を、スポーツ指導者の場合はスポーツ指導を展開し、それについて省察する。</li> <li>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。</li> </ul>							
教科書・参考書							
<p>教科書：『中学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房 『高等学校学習指導要領解説 保健体育』文部科学省 2018 東山書房</p> <p>参考書：各県教員採用試験過去問題集（保健体育）＊指定しない 教員採用試験参考書（保健体育）＊指定しない 教員採用試験ステップアップ問題集（保健体育）七賢出版 ＊該当年度の問題集</p> <p>指定図書：雑誌『月刊 体育科教育』大修館書店、雑誌『現代スポーツ評論』創文企画 『はじめての哲学的思考』 苫野一徳 2017 筑摩書房</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
「体育」「スポーツ」「運動」「身体」「教育」に関わるニュース、コラム、評論、雑誌、書籍に触れる機会を増やすこと。ネット記事であればブックマークをしたり、気になる紙媒体の資料があればコピーしてファイリングしたりして情報を蓄積すること。それが後に卒業研究論文の執筆、保健体育授業やスポーツ指導の実践力、教員採用試験の合格や望ましい就職につながる。							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション 及び個別面談	・ 本演習の概要説明 ・ 個別に学業等に関する面談を実施	予習：前学期の省察 復習：個別面談内容を基に 本学期の取り組みを立案
2	前学期の省察と本学期的目 標設定	前学期の省察を行い、それを基に本学期的目標を設定する。	予習：前学期の省察と本学 期の目標設定の下書き 復習：本学期的目標設定の 清書
2	哲学的対話という方法 I B	超ディベート（共通了解型志向型対話）の実践 I B （テーマ：体育やスポーツに関する事柄）	予習：『はじめての哲学的思 考』を通読 復習：図書の「はじめに」と 「おわりに」を再読
3	レジュメの作成 I B	主張の抽出と思考の言語化 I B （レジュメの作成方法の見直し）	予習：論文を検索し通読 復習：キーワード再設定の ち再検索
4	指導案の作成 I B	授業/指導計画と種目の教材化 I B （実技指導の対象を選定）	予習：学習指導要領を通読 復習：種目別に段階的な実 技指導法を調べる
5	テーマ研究①	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （テーマ：現代におけるスポーツの位置づけ）	予習：レジュメの作成 復習：発表時に受けた指摘 をもとにレジュメ添削
6	テーマ研究②	担当者が設定したテーマに基づいて発表 （テーマ：スポーツを漫画、アニメ、映画から考える）	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
7	実技指導研究①	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （種目：ボールゲーム）	予習：種目のルール確認、担 当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
8	テーマ研究③	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：スポーツ指導に関する問題）	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
9	テーマ研究④	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：体育の授業の実状）	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
10	実技指導研究②	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （種目：陸上競技関連）	予習：種目のルール確認、担 当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
11	授業内小テスト	教員採用試験過去問、スポーツ・運動指導関連問題	予習：指定された範囲を学 習 復習：間違い箇所の復習
12	テーマ研究⑤	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：スポーツに関する仕事、都市型スポーツ）	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
13	テーマ研究⑥	設定したテーマに基づいて担当者が発表 （テーマ：オリンピック・パラリンピックの功罪）	予習：テーマに適した資料 選定、レジュメ作成 復習：キーワード再設定
14	実技指導研究③	種目を設定し担当者が模擬授業/指導を展開 （テーマ：都市型スポーツの教材化）	予習：種目のルール確認、担 当者は指導案作成 復習：種目の特性を見直し
15	まとめ	本学期的授業のまとめと長期休暇の課題	・ 各自設定した研究テーマ や作成した指導案の省察

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	末永貴久		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
専門演習 I A に続き、スポーツトレーニングに関するテキストの輪読を通して、トレーニング、体しくみ、さらにスポーツ科学全般に関する基礎的な知識を理解すると共に、実技により実践の基礎を経験し、習得することを目的とする。また、これらの基礎的知識や実践を、自分が行っている種目や、関心がある種目に応用して考えることができるようになることを目的とする。							① ⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法		評価比率
専門力	<ul style="list-style-type: none"> <li>体のしくみを理解し、トレーニングに関する基礎的知識を理解することができる。</li> <li>各種トレーニングの実践方法を修得する。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼン用レジュメ</li> <li>実技試験</li> </ul>		10% 10%
情報収集、分析力	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が行っている種目や、興味がある種目を、トレーニングやスポーツ科学理論の観点から考えることができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼン後のディスカッション</li> </ul>		30%
コミュニケーション力	<ul style="list-style-type: none"> <li>ディスカッションにおいて自分の意見を述べることができる。</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>プレゼンテーション</li> <li>プレゼン後のディスカッション</li> </ul>		50%
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーションおよびプレゼン後のディスカッション (80%) については、担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、その周辺領域に関する知識も把握した上でのプレゼンテーションとする。プレゼン用レジュメ (10%) については、プレゼンテーションを行うにあたり、その内容がしっかりと要約できているかを評価基準とする (授業内でフィードバック)。実技試験 (10%) については、正しい方法を理論的に理解した上で実践できているかを評価基準とする。</p>							
授業の概要							
<p>スポーツトレーニングに関するテキストを輪読していく (①担当箇所・担当者の決定、②担当箇所を精読、③要約、④レジュメ作成、⑤報告、⑥ディスカッション)。なお、②～④の行程については、担当者が事前 (ゼミ時間外) に準備するものとする。また、実技は本学にて実習形式で行っていく。 この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：特に指定しない 参考書：「スポーツトレーニングの基本と新理論」2017 佐久間和彦 (監) 株式会社マイナビ出版 指定図書：「スポーツトレーニングの基本と新理論」2017 佐久間和彦 (監) 株式会社マイナビ出版</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>体のしくみやトレーニングに興味を持ち積極的に参加してほしい。また、自身のスポーツ時や日常においても、ゼミで習得した基礎知識をリンクさせ、疑問をもって自身で調べ、理解する等の取り組みを行ってほしい。 実技については、実践・体験することにより習得できるものであるから、スポーツに関わる人間として積極的な態度を期待する。 さらに、大学生としての受講態度やマナーをもって教員やゼミ生と接してほしい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション、前学期の省察と本学期的目標設定	自己紹介、前学期の省察と本学期的目標設定、後期のゼミの進め方についての説明、輪読①担当決定	予習：前学期の省察と本学期的目標を考えておく。前期の内容を見直しておく。 復習：省察と目標の確認。ゼミ内容の全般的な確認。
2	輪読①	栄養素、基礎代謝、BMIについて、輪読②担当決定	予習：自身の身長体重を調べておく。 復習：標準体重の計算が即座にできるよう確認しておく。
3	実技①	SAQトレーニングの実践	予習：敏捷性のトレーニング方法を調べておく。 復習：自分の種目に合わせた SAQ トレーニングを考え、実践する。
4	輪読②	体力測定、トレーニングの原理原則について、輪読③担当決定	予習：体力測定の項目を確認しておく。 復習：トレーニングの原理原則を覚える。
5	実技②	ペアストレッチの実践	予習：動画でペアストレッチを把握しておく。 復習：練習相手を探し、機会があるたびに実施して身につける。
6	輪読③	目的に応じた筋トレ方法、超回復について、輪読④担当決定	予習：様々な筋力トレーニングの方法を調べておく。 復習：筋肥大したいのか、筋力をつけたいのか、など具体的に考えた上でトレーニングをして覚える。
7	実技③	PNF ストレッチの実践	予習：PNF という言葉について調べておく。 復習：練習相手を探し、機会があるたびに実施して身につける。
8	輪読④	メッツ、カルボネンの目標心拍数について、輪読⑤担当決定	予習：消費カロリーについて調べておく。自分の安静時心拍数を確認しておく。 復習：カロリーや目標心拍数の計算がスムーズにできるよう式を覚える。
9	実技④	コンディショニング整体の実践	予習：コンディショニングについて調べておく。 復習：練習相手を探し、機会があるたびに実施して身につける。
10	輪読⑤	最大酸素摂取量、AT について、輪読⑥担当決定	予習：有酸素能力の指標について調べておく。 復習：自分の最大酸素摂取量を計測する機会を持ち、AT も知っておく。
11	実技⑤	認知機能低下予防運動の実践	予習：「脳トレ」について調べておく。 復習：日常生活の中で実施し、脳を活性化させ方法を覚える。
12	輪読⑥	子どもの発達・スキヤモンの発育曲線について、輪読⑦担当決定	予習：子どもの発達について調べておく。 復習：子どもにどのようなスポーツを提供していくべきか確認し、メカニズムを覚える。
13	実技⑥	介護予防運動の実践	予習：いきいき百歳体操の動画を見ておく。 復習：指導の流れや動作のポイントを確認する。
14	輪読⑦	トレーニングとメンテナンスについて	予習：様々なボディメンテナンスについて調べておく。 復習：栄養補給や体のケアなど、日頃から意識してスポーツに取り組むべきことを確認。
15	実技⑦	総括	予習：これまでの全体を見直しておく。 復習：自分の習得度を確認し、不十分なところを繰り返し学修する。

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	陳 慶光		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授 業 の ね ら い							アクティブ・ラーニングの類型
本演習では、ますます発展する市民マラソン大会を通じて、スポーツツーリズムによる地域活性化を広い視点から学ぶ。今後のスポーツイベント運営・企画を担う人材に成長できるよう、市民マラソン大会を対象にしたフィールド調査とレポート執筆を中心に進める。そうすることで地域の魅力を再発見し、引き出し、ひいては地域活性化に結実させる。							②⑥
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	スポーツツーリズムの基礎知識を理解することができる。				演習への参加度	10%	
情報収集、分析力	市民マラソン大会の動向について調べ、各大会の特色や魅力について分析することができる。				研究レポートとプレゼンテーション	30%	
コミュニケーション力	課題に積極的に取り組み、調査結果をレポートとしてまとめることができる。プレゼン資料を作成し、わかりやすく発表することができる。				研究レポートとプレゼンテーション	50%	
協働・課題解決力	グループ調査・研究に取り組むことができる。				演習への参加度	10%	
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・研究レポートとプレゼンテーション：スポーツツーリズムとフィールド調査に関する様々な概念の趣旨を身につけているかについて評価する。</li> <li>・演習への参加度：議論やグループワークへの参加度合を評価する。 フィールド調査とレポート執筆の各段階におけるフィードバックや助言は適宜個人指導を通じて行う。</li> </ul>							
授 業 の 概 要							
本演習では、調査研究とレポート執筆を通して、コミュニケーション力と情報収集、分析力および課題解決力を身に付ける。スポーツツーリズムの基礎知識を理解した上で、スポーツイベントに関する施策における課題、知識を徹底的に学びます。前期に行った予備調査の結果をもとに、後期の本調査を実施する。なお、各調査地域への旅費は各自で実費を負担する。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は45分とする。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
<p>教科書：特に指定しない。</p> <p>参考書：適宜紹介する。</p> <p>指定図書：『スポーツツーリズム・ハンドブック』、日本スポーツツーリズム推進機構編、学芸出版社</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>膨大な知識と経験を要する、「スポーツツーリズム」と「フィールド調査」について総合的に学びます。そのため、毎回の課題が数多く設定されます。継続的かつ主体的な学習態度が求められます。</p> <p>本演習を選択する学生は、スポーツツーリズムを履修することが望ましい。さらに、専門演習 I から III にかけて、マラソン大会のランナー、ボランティア、観客として積極的に参加を推奨します。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	オリエンテーション	専門演習 I A の結果を踏まえ、各自の方向性と進め方を確認する。	予習：シラバスを読む 復習：目標設定
2	フィールド調査の準備 (1)	「前学期の省察」と「本学期の目標設定」について面談を実施する。	予習：調査対象について調べておく 復習：目標設定と修正
3	フィールド調査の準備 (2)	フィールド調査の対象について、相互に討論して、各自調査したいテーマを決定する。	予習：文献を読む 復習：目標設定と修正
4	フィールド調査の準備 (3)	問題提起、調査計画を立てる。フィールド調査におけるデータ収集方法（アンケート）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
5	フィールド調査の準備 (4)	フィールド調査におけるデータ収集方法（参与観察）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
6	フィールド調査の準備 (5)	フィールド調査におけるデータ収集方法（インタビュー）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
7	フィールド調査の準備 (6)	フィールド調査におけるデータ分析方法（量的方法）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
8	フィールド調査の準備 (7)	フィールド調査におけるデータ分析方法（質的方法）について学ぶ。	予習：文献を読む 復習：調査票の作成
9	フィールド調査の準備 (8)	校内でアンケート調査、参与観察、インタビュー調査を予行練習する。11月末にフィールド調査を行う（暫定）。	予習：調査計画を立てる 復習：調査票の精査
10	研究レポートの作成 (1)	フィールド調査を振り返り、気付いた点や感想を話し合い、レポート作成の方向性を検討する。	調査結果を初歩的にまとめる
11	研究レポートの作成 (2)	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
12	研究レポートの作成 (3)	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
13	研究レポートの作成 (4)	研究レポートを作成、修正する。	レポート執筆
14	研究結果の発表	作成したレポートをもとに、プレゼンテーションを行う。	予習：口頭発表の準備 復習：口頭発表の反省
15	まとめと展望	各自が本学期の調査を振り返り、来年度に向けて検討する。	本学期の成果の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	中島 金太郎		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
<p>テーマ：地域および博物館と連携した調査研究と展示</p> <p>専門演習 I A で実施した地域文化資源に関するフィールドワークを再検討し、その成果をまとめて発表することができる。特に博物館の4大機能の中でも「調査研究」「展示」機能について学び、収集・記録した資料を研究して展示する活動を行うことで、学芸員に必要な実践的能力を養うことができる。</p>							⑤⑥⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館や地域文化資源に関心を持つことができ、主に資料の研究・展示の方法を身に付けることができる。				授業への参加態度	25%	
情報収集、分析力	地域文化資源の特性を見出す洞察力や、問題点を把握する分析力及び思考力を取得することができる。				街歩きマップの作成	35%	
コミュニケーション力	展示作業およびグループワークの実施により、集団内でのコミュニケーション能力や発言力、企画立案力を養うことができる。				グループワークへの取り組み	40%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<ul style="list-style-type: none"> <li>・演習は展示製作を中心とし、それに至るまでのグループワーク、施工作業への取り組み・態度を総合的に判断する。</li> <li>・一連の調査・展示・学習で得られた研究成果を街歩きマップにまとめ、その提出を必須とする。</li> </ul>							
授業の概要							
<p>演習の方法は以下の手順で行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 博物館における研究および展示の目的・意義を確認</li> <li>2. 街歩きマップのテーマ・様式等についてグループワーク</li> <li>3. テーマに関するフィールドワークの実施</li> <li>4. 第2回展示に向けて、目的・場所・日程・方法等についてグループワーク</li> <li>5. 展示の実施（フィールドワークの成果を基に、宮地区コミュニティセンターで展示を施工する。）</li> <li>6. 1年間の研究成果を基に、街歩きマップを共同で作成し、ゼミ内で相互評価を行う。</li> </ol> <p>※フィールドワークは、教員の車で移動できる範囲で行う。</p> <p>この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：使用しない</p> <p>参考書：授業中に指示する</p> <p>指定図書：デビッド・ディーン『美術館・博物館の展示 理論から実践まで』丸善出版</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>この演習は、博物館学芸員としての基礎である展示能力・研究能力・広報能力を習得するものであり、展示や広報物製作作業を通じて実務能力を習得するだけでなく、地域文化資源に興味を持つ好奇心や、自分自身で深めていく検討能力も養ってほしい。また、展示物や広報物の製作にはセンスが求められることもあるため、博物館に限らず様々な展示、ポスター、チラシなどを見てセンスを磨いてほしい。</p> <p>※本演習を選択する学生は、博物館学芸員課程の履修者であることが望ましい。</p>							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	演習内容の確認	ガイダンス（演習内容の把握）を実施。	予習：シラバスを読む 復習：展示製作の方法を確認
2	前学期の省察と本学期的目標設定	前学期の学習成果を省察し、本学期的個人目標設定のための面談を実施。	予習：前学期の省察と本学期的目標設定の下書き 復習：本学期的目標を設定し、用紙にまとめる
3	マップに関する講義	観光学および文化財保護における周遊マップの概要・意義について講義する。	予習：文化財保護論の内容を復習（受講生のみ） 復習：マップのデザイン等を考案
4	街歩きマップ内容の選定	ゼミ内でグループワークを行い、文化財を活用した街歩きマップのテーマ、対象地域、デザイン、様式等について検討する。	予習：マップテーマの考案 復習：フィールドワークの日程・内容を考案
5	フィールドワークの準備	地図を基に具体的な調査方法を検討し、同時に日程・持参物等について確認する。	予習：各人の役割分担の再確認 復習：準備事項の確認
6	フィールドワーク	10月中旬～11月上旬に、日帰り地域文化資源のフィールドワークを実施する。（学外授業、調査日は天候等によって変更となる可能性あり。）	予習：フィールドワーク予定地および調査方法の再確認 復習：調査成果の見直し
7	街歩きマップの役割分担内容検討	ゼミ内でグループワークを行い、マップ作成にあたっての役割分担と、フィールドワークを踏まえての内容検討を行う。	予習：調査成果の見直し 復習：担当する作業の確認
8	展示構想①	第1回展示を踏まえて、年末年始に行う展示替え（第2回展示）のテーマ、目的、役割分担等を決める。並行して文化財マップの作成作業を行う。	予習：展示内容を確認 復習：展示内容を再検討
9	展示構想②	ゼミ内でグループワークを行い、展示に使用するパネルや題箋、ポスター等について検討する。並行して文化財マップの作成作業を行う。	予習：展示内容を確認 復習：展示内容を再検討
10	展示製作①	展示物（パネル、題箋類）を制作する。あわせて、広報物も制作する。並行して文化財マップの作成作業を行う。	予習：展示内容を確認 復習：展示内容を再検討
11	展示製作②	展示物（パネル、題箋類）を完成する。並行して文化財マップの作成作業を行う。	予習：展示内容を再検討 復習：展示施工の方法について再確認
12	展示準備・施工	展示を公開するため、具体的な施工の準備を行う。また、宮地区コミュニティセンター内に設置されている展示ケースで実際に展示を施工する。	予習：展示準備 復習：展示作業の自己評価・自己分析
13	展示の反省	ゼミ内でグループワークを行い、展示の反省点・改善点を協議し、次年度以降の履修生に向けての提言をまとめる。	予習：展示内容の自己評価・自己分析 復習：自分自身の改善点を把握する
14	街歩きマップの校正	印刷前の文章校正、内容の確認、配置等のチェックを行い、入稿する。	予習：各担当内容の再確認 復習：成果物提出の準備
15	街歩きマップの受理	成果物を提出し、後期のまとめを行う。	予習：成果物提出の準備 復習：個人目標の達成状況の確認

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	Brendan Van Deusen		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
This course builds on the skills gained in the previous semester. In addition to further improving students' ability to discuss and present ideas about current global affairs, this course aims to teach students how to communicate and collaborate with students in other countries using online exchange.							② ④ ⑤
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力						%	
情報収集、 分析力	Students will be able to read about and discuss global affairs in a group				Assignments Presentation	20% 10%	
コミュニケーション力	Students will be able to present ideas about global affairs as a group in a way that engages their audience Students can communicate online with students from other countries.				In-class engagement Presentation Report	30% 20% 20%	
協働・課題解決力						%	
多様性理解力						%	
出席					受験要件		
合計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
In-class engagement (Group discussions, supporting other students with helpful ideas): 30% Assignments (weekly assignments, preparation work for projects): 20% Projects (final presentation, final report): 50% * All feedback is provided via rubrics and comments in the online gradebook ( <a href="https://niu.9learn.net/">https://niu.9learn.net/</a> and Google Classroom)							
授業の概要							
In the first few classes, students discuss current events topics that are of interest to them. From this, they move on to building an academic presentation about one of these topics. Working in stages, students build their knowledge and ability to communicate their ideas and engage with others in a group setting. The project culminates in a final presentation with extended Q&A / class discussion.この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。							
教科書・参考書							
教科書：None 参考書：English newspapers in the library 指定図書：Hot Topics Japan 2							
授業外における学修及び学生に期待すること							
1. This course is conducted in English. 2. Students are responsible for the cost of project-related materials and off-campus field work. 3. Student expectations: Students will attend <u>all lessons</u> (unless sick or on a school trip). Students must contact the teacher <u>before</u> missing a class. If a student misses a class, he or she will catch-up on the lesson and homework. Students will complete projects and homework on time. Students will ask for help if necessary. This syllabus is subject to change.							

回	テ ー マ	授 業 の 内 容	予 習 ・ 復 習
1	Introduction	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Introduce the course and review the syllabus</li> <li>• Framework for selecting and discussing current events</li> </ul>	Read syllabus in advance
2	Personal goal setting	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Conference with seminar teacher to reflect on last semester's goals and set new ones / <i>Rubric Hyoka</i></li> </ul>	Prepare goals
3	Online exchange introduction	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Set up online exchange</li> <li>• Online etiquette and best practices</li> </ul>	Decide current even topic
4	Online audio and video skills	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Creating and sharing videos for online exchange</li> <li>• Creating and sharing audio for online exchange</li> </ul>	Begin online interaction
5	Group 1 presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Group 1 presents global affairs topic, followed by class discussion</li> </ul>	Prepare for presentation and discussion
6	Online exchange status report	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Report status of online exchange activity</li> <li>• Fixing communication breakdowns</li> </ul>	Summarize activity in notebook
7	Group 2 presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Group 2 presents global affairs topic, followed by class discussion</li> </ul>	Prepare for presentation and discussion
8	Online exchange status report	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Report status of online exchange activity</li> <li>• Begin formulating final project topic</li> </ul>	Summarize activity in notebook
9	Group 3 presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Group 3 presents global affairs topic, followed by class discussion</li> </ul>	Prepare for presentation and discussion
10	Online exchange status report	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Report status of online exchange activity</li> <li>• Finalize final project topic</li> </ul>	Summarize activity in notebook
11	Group 4 presentation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Group 4 presents global affairs topic, followed by class discussion</li> </ul>	Prepare for presentation and discussion
12	Online exchange status report	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Report status of online exchange activity</li> <li>• Provide outline of final project plan</li> </ul>	Summarize activity in notebook
13	Final presentation preparation	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Workshop and status update of final presentation</li> </ul>	Bring materials related to final presentation
14	Final Presentations	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present and participate in Q&amp;A</li> </ul>	Prepare for presentation and Q&A
15	Final Presentations Wrap-up	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Students present and participate in Q&amp;A</li> <li>• Final class discussion</li> </ul>	Prepare for presentation and Q&A Submit final report

授業科目(ナンバリング)	専門演習 I B (CF202)			担当教員	相羽 枝莉子		
展開方法	演習	単位数	1 単位	開講年次・時期	2 年・後期	必修・選択	必修
授業のねらい							アクティブ ラーニング の 類 型
スポーツ心理学の専門テキストの輪読を通して、メンタルトレーニング、コーチングに関するスポーツ心理学の基礎知識を理解することを目的とする。また、これらの基礎的知識をもとにスポーツの現場に向き、そこで発見した課題について、解決に向けたディスカッションを行う。さらに、スポーツ心理学における実験・調査について理解を深め、レポート作成を通してデータ収集、分析、心理的考察の方法を実践的に学ぶ。							①⑤⑩
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力							
情報収集、分析力	スポーツ場面における心理的要因を中心に、客観的な根拠を基に自分の考えを理論的に展開することができる。				プレゼンテーション資料 レポート	20% 20%	
コミュニケーション力	スポーツ心理学の基礎知識について説明することができる。 スポーツ現場における心理学的課題について自身の意見をまとめ、ディスカッションに積極的に参加し、発表をすることができる。 ボランティア活動に積極的に参加し、活動することができる。				プレゼンテーション活動の参加度	30% 30%	
協働・課題解決力							
多様性理解力							
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
<p>プレゼンテーション資料（評価比率:20%）：プレゼンテーションの担当箇所の内容を理解し、要約できているかを評価する。</p> <p>レポート（評価比率:20%）：スポーツ現場での課題とその解決策について、専門用語を用いてまとめることができているかを評価する。</p> <p>プレゼンテーション（評価比率:30%）：担当箇所に記載されている知識の把握のみならず、周辺領域に関する知識を把握した上で、理論的に説明できているかを評価する。</p> <p>授業への参加度（評価比率:30%）：授業内でのディスカッションおよび学外活動に対して積極的に参加しているかを評価する。 ※プレゼンテーションおよびプレゼンテーション資料については、授業内でフィードバックを行う。</p>							
授業の概要							
<p>前半は、テキストの輪読を通してスポーツ心理学の基礎知識を幅広く学ぶ。各章の担当者を決定し、担当者は事前にテキストを精読・要約し、プレゼンテーション資料を作成する。作成した資料をもとにプレゼンテーションを行い、授業内でディスカッションを行う。課題の提出およびレポートの共有は、ポートフォリオを通じて行う。</p> <p>後半は、メンタルトレーニングに関する基礎知識を習得し、実践活動への応用を通じて、課題発見・解決についてディスカッションを行う。さらに実験・調査を計画し、データ収集、分析、レポート作成を通して研究手法を学ぶ。</p> <p>なお、当該授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、45分とする。</p>							
教科書・参考書							
<p>教科書：使用しない</p> <p>参考書：中込四郎他『よくわかるスポーツ心理学』ミネルヴァ書房，2012</p> <p>指定図書：日本スポーツ心理学会（編）『スポーツメンタルトレーニング教本 三訂版』大修館書店，2016</p>							
授業外における学修及び学生に期待すること							
<p>スポーツ心理学に興味を持ち、普段から自分の専門種目や興味関心のある競技種目、日常生活における心理的要因について知識を深めること。また、学外活動では、地域の方々から学ぶ者として謙虚な姿勢を忘れず、挨拶、言葉遣い、身だしなみ等、よい印象をもたれるようなマナーを心がけて臨み、時間厳守や報告・連絡・相談に努めること（なお、活動にかかる交通費は、原則自己負担）。活動中に知り得た情報の取り扱いに注意し、守秘義務を守ること。</p> <p>※本演習を選択する者は、スポーツツーリズムコースを履修することが望ましい。</p>							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	オリエンテーション	授業の進め方、輪読担当箇所の設定	シラバス及び参考書の確認
2	前学期の省察と本学期の目標設定	授業担当教員と相談しながら、前学期の省察を行い、それを基に本学期の目標設定について確定する	予習：前学期の省察と本学期の目標設定の下書き 復習：本学期の目標設定の清書
3	輪読 (1)	スポーツ心理学の基礎知識 (1)	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
4	輪読 (2)	スポーツ心理学の基礎知識 (2)	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
5	輪読 (3)	スポーツ心理学の基礎知識 (3)	予習：担当箇所の精読・要約・レジュメを作成する
6	スポーツ現場への応用	ジュニアスポーツ競技者へのメンタルトレーニングを参観する	予習：メンタルトレーニングに関する知識について予習する
7	スポーツ現場への応用	ジュニアスポーツ競技者へのメンタルトレーニングのプログラムを作成する	予習：メンタルトレーニングのプログラムを考える
8	スポーツ現場への応用	作成したメンタルトレーニングのプログラムを実践する	復習：活動内容を報告書にまとめる
9	スポーツ現場への応用	作成したメンタルトレーニングのプログラムを実践する	復習：活動内容を報告書にまとめる
10	実験・調査計画 (1)	自己のテーマについて調査・実験を計画する	予習：興味のあるテーマについての論文を精読する
11	実験・調査計画 (2)	自己のテーマについて調査・実験を計画する	予習：調査・実験計画書を作成する
12	実験・調査	調査・実験を実施する	復習：調査・実験のデータを整理する
13	実験・調査の分析	調査・実験結果の分析	復習：実施した調査・実験のレポを作成する
14	実験・調査レポート (1)	調査・実験結果の考察、レポートの作成	復習：実施した調査・実験のレポートを作成する
15	実験・調査レポート (2)	調査・実験結果の考察、レポートの作成	復習：実施した調査・実験のレポートを作成する